TOSHIBA
Leading Innovation

# 液晶ディスプレイ

# 取付/取扱説明書

# 形名

## TD-E432/TD-E502/TD-E552/TD-E652
## TD-E432D/TD-E502D

**ユーザーメモ**

形名・シリアル番号は液晶ディスプレイ本体の
背面に記載されています。
形名・シリアル番号を下記にご記入ください。
東芝の販売店にご連絡される際は、この番号をお伝え
ください。
形　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
シリアル番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

～最初に必ずお読みください～

# 安全上のご注意

商品および取付/取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| ⚠警告 | “取扱いを誤った場合、人が死亡、または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。 |
| ⚠注意 | “取扱いを誤った場合、人が軽傷（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。 |

＊1：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものをさします。
＊2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。
＊3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

| 図記号 | 図記号の意味 |
|---|---|
| 禁　止 | “⃠”**は、禁止（してはいけないこと）**を示します。<br>具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |
| 指　示 | “●”**は、指示する行為の強制（必ずすること）**を示します。<br>具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |
| 注　意 | “△”**は、注意**を示します。<br>具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 |

## ⚠警告

### 異常や故障のとき

**■ 煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

**■ 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

プラグを抜け

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

**■ 内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

**■ 落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

**■ 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く**

プラグを抜け

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

### 設置するとき

**■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する**

指　示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

**■ 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には設置しない**

風呂、シャワー室での使用禁止

火災・感電の原因となります。

**■ 振動・衝撃のある場所に設置しない**

振動禁止

振動・衝撃で液晶ディスプレイが移動・転倒し、けがの原因となります。

**■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む**

指　示

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

**■ 壁に取り付けて使用する場合、壁掛工事は、お買い上げの販売店に依頼する**

指　示

工事が不完全だと、けがの原因となります。

～最初に必ずお読みください～

# 安全上のご注意　つづき

## 設置するとき　つづき

■ 転倒・落下防止の処置をする

転倒・落下防止の処置をしないと、液晶ディスプレイの転倒・落下によってけがなどの危害が大きくなります。
転倒、落下防止のしかたについては、設置環境によりますので、工事専門業者にご依頼ください。

■ 電源コードは、本機の付属品を使用する

付属品以外の電源コードを使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

■ 本機に付属されている電源コードを他の機器に使用しない

他の機器に使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

■ 異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 雷が鳴りだしたら液晶ディスプレイ・電源コードおよび本機に接続した機器やケーブル・コードに触れない

感電の原因となります。

■ 包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

## 使用するとき

■ 修理・改造・分解はしない

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 電源コード・電源プラグは、

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない
- 引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない
- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない

火災・感電の原因となります。

## お手入れについて

■ ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

# ⚠注意

## 設置するとき

■ 温度の高い場所に置かない

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- 壁に押しつけないでください。（17.5mm以上の間隔をあける）
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、

- 包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う
  ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、液晶ディスプレイを落としてけがをしたりする原因となることがあります。
- 液晶ディスプレイを押したり液晶ディスプレイを支えていなかったりすると、液晶ディスプレイが落下してけがの原因となることがあります。
- 衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う
  液晶ディスプレイが破損してけがの原因となることがあります。
- 移動する前に、すべてのケーブルを取り外す
  ケーブルを接続したまま本機を移動すると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

■ 車（キャスター）付きのスタンドに設置する場合は、キャスターが動かないように固定する

固定しないとスタンドが動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。キャスターをはずさないと、揺れたり、傾いたりして倒れることがあります。

## 使用するとき

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

## 使用するとき　つづき

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■ 液晶ディスプレイやスタンドにぶら下ったり、上に乗ったりしない

落ちたり、倒れたり、壊れたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ リモコンに使用している乾電池は、

- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示(+)と(−)を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解したり、ショートさせたりしない**
- **火や直射日光などの過激な熱にさらさない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **長期間使用しないときは、乾電池をリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

これらを守らないと、液もれ・発熱・発火・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ 液晶ディスプレイの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。

もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

## お手入れについて

■ お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く

**感電の原因となることがあります。**

■ 1年に一度は内部の清掃を、お買い上げの販売店に相談する

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

〜最初に必ずお読みください〜

# 使用上のお願いとご注意

## 取扱いについて

- **高度3000mを超える場所では使用しないでください。正常に動作しない可能性があります。**
- **本機をご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。**
- **移転など、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動を与えないでください。**
- **本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。**
- **本機から「ジー」という液晶パネルの駆動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。**

## 本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- **本機を譲渡する場合、全ての情報を初期化することをお勧めします。**
- **本機を破棄する場合、地域や地方自治体などの規則に従って、定められた場所に出してください。**

## 商標に関する情報

- **HDMI、HDMI ロゴ、High-Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing の商標または登録商標です。**
- **この製品はドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。**
  **Dolby、ドルビー、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。**

## 免責事項について

- **地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、使用者の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。**
- **本機の使用または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。**
- **取付/取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。**
- **誤操作や、静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。**

この装置は、クラスA 情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI−A

メモは、重要度の高い情報や、特に注意が必要なことを強調して示しています。また、補足情報も記載されています。

# 目次

## 第1章　はじめに

液晶ディスプレイの機能 ..... 6
梱包箱の内容 ..... 7
各部の名称と働き ..... 8
ケーブルと端子 ..... 10
赤外線リモコン ..... 12

## 第2章　設定

設置準備 ..... 16
縦置きまたは横置きに設置する ..... 21
接続手順 ..... 23
アナログビデオソースと接続する ..... 24
デジタルビデオソースと接続する ..... 25
LAN に接続する ..... 27
電源コードをディスプレイに接続する ..... 27

## 第3章　操作

すべてに接続機器の電源をオンにする ..... 29
ビデオ入力を選択する ..... 33
OSD の言語を選択する ..... 34
初期設定 ..... 35
画像モードを選択する ..... 36
画像の調整 ..... 37
音声設定 ..... 38
スケジューラー設定 ..... 40
スケジュールの設定放送 ..... 41
USB ドライブのメディアを視聴する ..... 43
通信による遠隔制御 ..... 51
OSD 画面の構成と基本操作 ..... 55

## 付録

仕様 ..... 66

# 第 1 章
# はじめに

## 液晶ディスプレイの機能

### 長時間連続可能な液晶ディスプレイ ( 推奨時間：16 時間 / 日)

- **43インチ/50インチ/55インチ/65インチ**— 幅広いコンテンツやメッセージをくっきりと伝える高品質の液晶パネルを搭載しています。

### 幅広いコンテンツやメッセージをくっきりと伝える高品質液晶ディスプレイ

- **フル HD パネル** — 本機のパネルは、ビデオ信号やコンピューター信号からの映像を高精度かつ鮮明に再現し、フル HD（1920 x 1080）に対応した高解像度を備えています。

### LED バックライト

- **450 cd/m2 43 インチ/50 インチ/55 インチ/65 インチ** — LEDバックライトを搭載することで、低電力消費化と水銀の不使用を実現しました。スリムなデザインで、従来の液晶ディスプレイ以上にさまざまな場所に設置可能です。

### 様々な用途に対応した表示拡張機能

- **デイジーチェーン接続** — 市販のDVI-Dケーブルを用いてDVI-D OUT端子やDVI-D IN端子に接続すると、ビデオ信号を最大 25 台のディスプレイに伝送できます（2m のケーブル使用時)。ビデオ信号を複数のディスプレイに供給する場合に便利です。
- **LAN制御** — LANネットワーク経由でPCから制御コマンドを送信して､複数のディスプレイを制御できます。27 ページと 54 ページを参照してください。

### その他

- **内蔵スピーカー** — 本機は、内蔵スピーカーと外部スピーカーを備えています。外部スピーカーと内蔵スピーカーの切換はメニューから操作できます。38 ページ、39 ページ、60 ページを参照してください。
- **リモコン** — 付属の赤外線リモコンで、電源オン / オフ、入力選択、メニューへのアクセスなど、本機の各種機能を制御します。12 ～ 13 ページを参照してください。
- **USB メディアプレーヤー** — 外部メディアプレーヤーを接続せずに、ディスプレイ単体でも動画や静止画、音声ファイルのコンテンツを再生が行えます。43 ページを参照してください。内蔵 USB メディアプレーヤー CODEC は以下に対応しています：
  - **動画**：MPG、MPEG、AVI、MKV、MOV、MP4、TS、M2TS、H.264（最大レベル 4.0）
  - **音楽**：MP3、WMA、AAC
  - **写真**：JPG、BMP、PNG（解像度 1024x768 以上の BMP と PNG は、表示するまでに時間がかかる場合があります。）

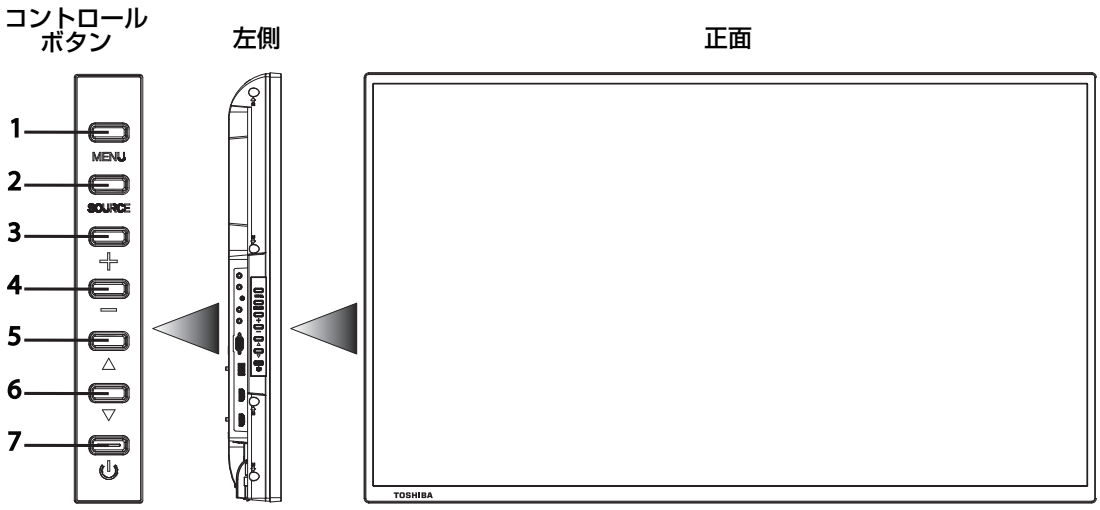
# 梱包箱の内容

| 品名 | 数量 | 備考 |
|---|---|---|
| 液晶 ディスプレイ | 1 | |
| 赤外線リモコン | 1 | CT-8058 |
| 乾電池 | 2 | 単四形乾電池 |
| AC 電源コード | 1 | 1.8m |
| 変換ケーブル | 1 | CVBS/YPbPr 用 3.5mm ミニプラグ－ RCA 変換ジャック |
| ロゴ隠しシール | 1 | |
| 取扱説明書 | 1 | |
| 保証書 | 1 | |
| ケーブルクランプ | 5 | |

電源コードは、付属のもの以外は使用しないでください。
本電源コードは、本製品以外に使用しないでください。

# 各部の名称と働き

## ボタンとインジケーター




**1** **[MENU] ボタン** — オンスクリーンディスプレイ（OSD）メニューに入ります。

**2** **[SOURCE] ボタン** — OSD メニューを表示してビデオ入力を切り換えます。
[AV]、[ コンポーネント ]、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[VGA]、[USB] を、上 ( ▲ )/ 下 ( ▼ ) ボタンで選択できます。

**3** **プラス（+）ボタン** — 音量を上げます。

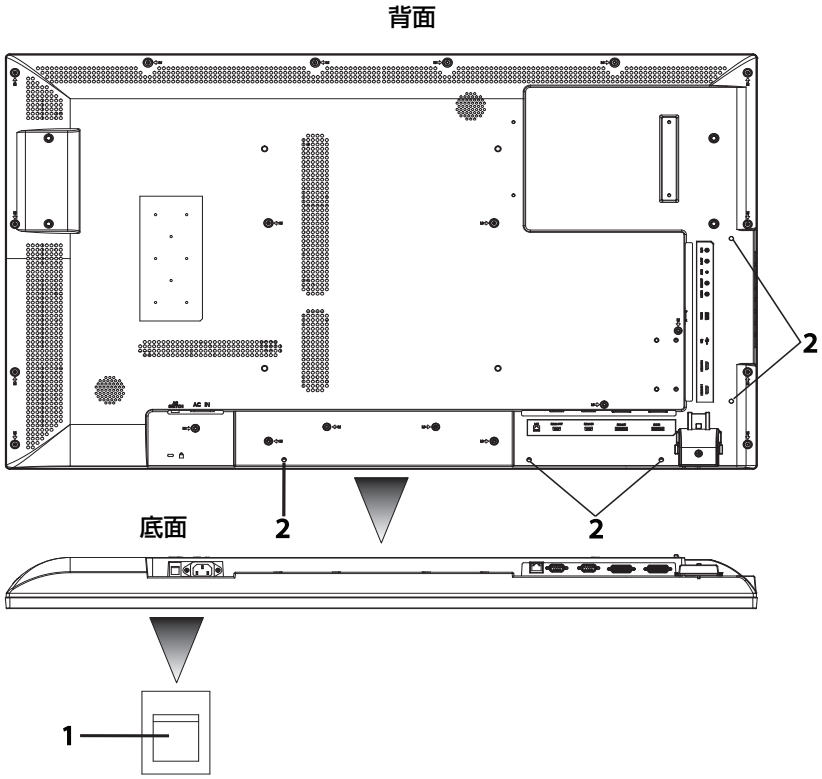
**4** **マイナス（−）ボタン** — 音量を下げます。

**5** **上（▲）ボタン** — OSD メニューでハイライトされた箇所を上に移動します。

**6** **下（▼）ボタン** — OSD メニューでハイライトされた箇所を下に移動します。

**7** **[POWER] ボタン** — 電源をオン / オフします。このボタンは、電源インジケーターがオフ時は操作できません。その場合は、主電源スイッチをオンにしてください（9 ページ参照）。

**メモ** ロゴ隠しシール：「TOSHIBA」のロゴを隠したい場合は、梱包箱の内容として提供されているロゴ隠しシールをロゴの上に貼り付けてください（7 ページ参照）。

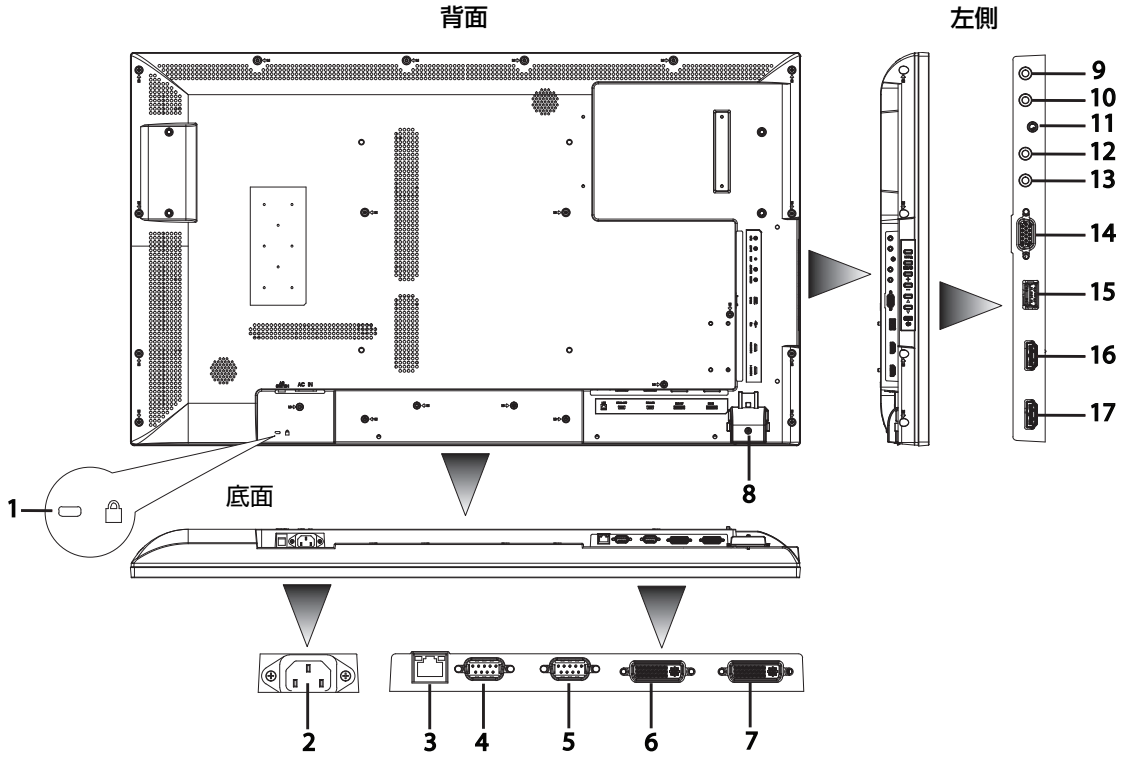



**1** **主電源スイッチ** — 主電源のオンオフを切り換えます。機器への電源の接続 / 遮断に使用します。

**2** **ケーブルクランプ取付用穴** — ケーブルを本機に固定するために使用します。

# ケーブルと端子

ケーブルの種類と接続に関する詳細は、23 ～ 25 ページを参照してください。




**1** **盗難防止用ロック取付穴** — セキュリティおよび盗難防止に使用します。

**2** **AC IN（3 ピン、接地端子付き）** — 付属の電源コードと接続します。クラス I の製品には、接地を施した主電源の接続が義務付けられています。

**3** **LAN（RJ45 ETHERNET）** — LAN にアクセスするための LAN ケーブルと接続します。

**4** **RS-232C OUT** — 通信コマンドのパススルー制御のため、他のモニターの RS-232C 入力端子と接続します。

**5** **RS-232C IN** — PC の RS-232C OUT 端子及び通信コマンドのパススルー制御のため、他のモニターの RS-232C 出力端子を接続します。

**6** **DVI-D OUT** — DVI 信号のパススルー接続時、接続するモニターの DVI-D IN 端子に供給する信号を出力します。

**7** **DVI-D IN** — PC などのデジタルビデオ信号出力端子と接続します。

**8** **リモコンセンサーと電源インジケーター** — リモコンセンサー : 赤外線リモコンからの信号を受信します。電源インジケーター : 液晶ディスプレイの状態を示します。詳しくは、32 ページを参照してください。

**9** **IR IN** — IR 入力端子、IR ケーブル ( 市販品)及び IR パススルー時に他のモニターの IR 出力端子と接続します。

**10** **IR OUT** — IR IN 端子（**9**）に供給された信号を出力します。

**11** ANALOG VIDEO — 梱包箱の付属ケーブルを使用して、PC、VCR、DVD プレーヤーなどの外部機器のビデオ出力ケーブルと接続します。このコネクタはコンポーネントビデオ（YPbPr）とアナログビデオ（AV）の入力に対応しています。

**12** LINE OUT — LINE IN 端子（**13**）に供給された信号を出力します。ヘッドホンやイヤホンなどの外部音声増幅器との接続には対応していません。

**13** LINE IN — PC、VCR、DVD プレーヤーなどの外部機器の音声映像出力ケーブルと接続します。

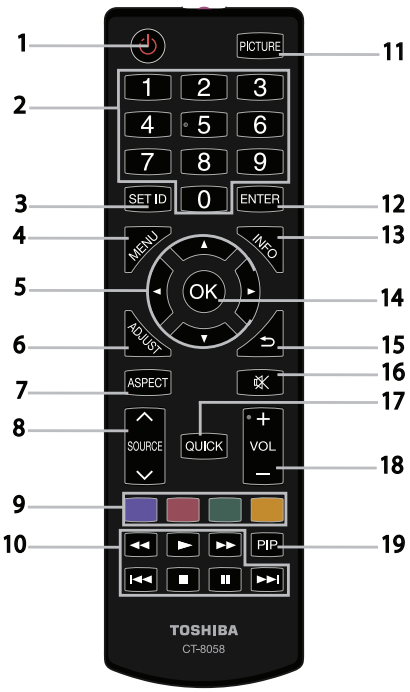
**14** VGA IN — PC のアナログビデオ信号出力端子と接続します。

**15** USB PORT — ポータブルメディア（USB メモリなど）用の USB ポート。

**16** HDMI2 — HDMI インターフェースの音声 / ビデオ信号に対応した機器と接続します。

**17** HDMI1 — HDMI インターフェースの音声 / ビデオ信号に対応した機器と接続します。

# 赤外線リモコン




**1** **[POWER] ボタン** — 電源をオン / オフします。電源インジケーターが消灯している場合は、赤外線リモコンは動作しません。

**2** **[NUMBER] ボタン** — リモート ID 設定を入力したり、スケジューラーをプログラムするときの数字の入力に使用します。

**3** **[SET ID] ボタン** — リモコン ID を設定します。IR デイジーチェーンモード時に使用します。63 ～ 64 ページを参照してください。

**4** **[MENU] ボタン** — OSD メニューをオン / オフします。

**5** **上/下/右/左ボタン** — OSDメニューで現在ハイライトされている箇所を移動します。（▲）ボタンでハイライトされている箇所を上に移動します。（▼）ボタンでハイライトされている箇所を下に移動します。（◀）ボタンでハイライトされている箇所を左に移動します。（▶）ボタンでハイライトされている箇所を右に移動します。

**6** **[ADJUST] ボタン** — VGA 入力画像を自動調整します。

**7** **[ASPECT] ボタン** — ディスプレイの現在のアスペクト比を表示します。また、アスペクト比が表示中に続けて [ASPECT] ボタンを押すと、アスペクト比を変更できます。アスペクト比の変更の詳細は、59 ページを参照してください。

**8** **[SOURCE] ボタン** — OSDメニューを表示してビデオ入力を切り換えます。[AV]、[ コンポーネント ]、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[VGA]、[USB] から選択します。

**9** **[MEDIA CONTROL] ボタン** — 特定のメニューの各種制御機能を提供します。各ボタンの機能は、それぞれのボタンの色で OSD に表示されます。

**10** **[AUDIO/VIDEO CONTROL] ボタン** — メディアファイルの再生中に制御機能を提供します。早戻し（◁◁）、再生（▷）、早送り（▷▷）、前（|◁◁）、停止（□）、一時停止（▯▯）、次（▷▷|）。

**11** **[PICTURE] ボタン** — [ ダイナミック ]、[ シネマ ]、[ カスタム ]、[ 標準 ] から画像モードを選択します。36 ページと 58 ページを参照してください。

**12** **[ENTER] ボタン** — リモコン ID を設定します。IR デイジーチェーンモード時に使用します。64 ページを参照してください。

**13** **[INFO] ボタン** — 現在のディスプレイの解像度とリフレッシュレートを表示します。

**14** **[OK] ボタン** — OSD メニューで行った設定を決定します。

**15** **[BACK] ボタン** — 1 つ前の OSD メニューを表示します。

**16** **[MUTE] ボタン** — 消音機能をオン / オフします。

**17** **[QUICK] ボタン** — スケジューラーに入ります。この設定で、電源オン / オフや入力選択をプログラムできます。

**18** **[VOLUME] ボタン（VOL）** — プラス（+）側を押すと、音声出力レベルが上がります。マイナス（−）側を押すと、音声出力レベルが下がります。

**19** **[PIP] ボタン** — 本機ではサポートしておりません。

# 赤外線リモコンの使い方

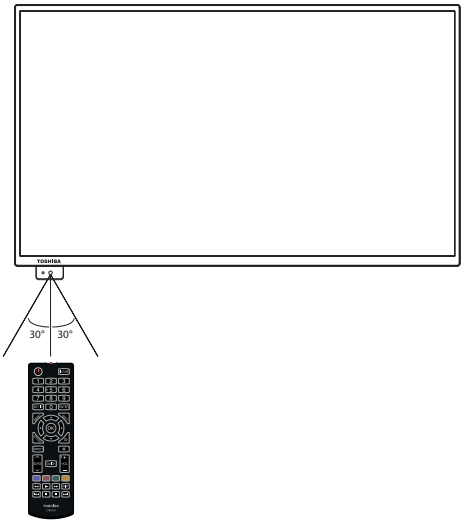
## 赤外線リモコンセンサーの設定

赤外線リモコンを使用する前に、液晶ディスプレイのリモコンセンサーの位置を決めます。

リモコンセンサーは液晶ディスプレイ背面の左側にある小さな黒いボックスです。

リモコンセンサーボックスを所定の位置にロックされるまで、液晶ディスプレイ背面からスライドして引きだします。

センサーを元の位置に戻すには、この手順を逆の順序で実行します。




## 赤外線リモコンの動作範囲

ボタン操作時は、赤外線リモコンを液晶ディスプレイのリモコンセンサーに向けます。

赤外線リモコンは、液晶ディスプレイのリモコンセンサーの正面から 10m 以内。横置き時は左右 30 度以内。縦置き時は上下 30 度以内で使用してください。

**メモ** 液晶ディスプレイのリモコンセンサーに直射日光や強い照明があたったり、センサーの軌道内に障害物があると、リモコンシステムが機能しないことがあります。

## 赤外線リモコンを操作する

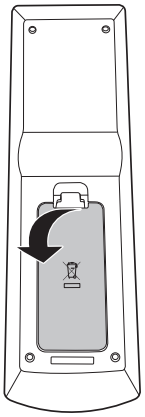
- 強い衝撃を与えないでください。
- 赤外線リモコンに水などの液体がかからないようにしてください。赤外線リモコンが濡れた場合はただちに拭き取ってください。
- 熱や蒸気にさらさないでください。
- 乾電池を取り付ける時以外は赤外線リモコンのカバーを開けないでください。

## 赤外線リモコンに乾電池を取り付ける / 赤外線リモコンから乾電池を取り外す

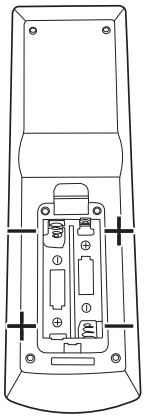
赤外線リモコンには 1.5V 単四形電池を 2 本使用します。

### 乾電池の取り付け方

**1** カバー上部のツメをカバー下方向に押しながらすくい上げ、電池カバーを取り外します。



**2** ケース内に記されている（+）と（−）の印に合わせて乾電池を取り付けます。



**3** カバーを元通りに取り付けます。

### 乾電池の取り外し方

**1** カバー上部のツメをカバー下方向に押しながらすくい上げ、電池カバーを取り外します。

**2** 乾電池を取り外します。

**⚠注意** 乾電池は正しく使用してください。誤った使い方をすると、液漏れや破裂の原因になります。特に以下の事項に注意してください。

- （+）と（−）の印に合わせて単四形乾電池 (R03 または LR03) を使用します。
- 違う種類の乾電池を一緒に使用しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池からの液漏れを防ぐために、寿命を迎えた乾電池はただちに取り外してください。
- 肌に損傷を引き起こすため、液漏れした乾電池には素手で触れないでください。

**メモ**

- リモコンが動作しにくくなったり操作できる距離が短くなったりしたら、2個とも新しい乾電池と交換してください。
- リモコンを長期間使用しない場合は、乾電池を抜いてください。

# 第２章
# 設定

## 設置準備

### 設置場所を決める

⚠注意 液晶ディスプレイの設置は必ず販売店に依頼してください。
お客様ご自身で設置しないでください。

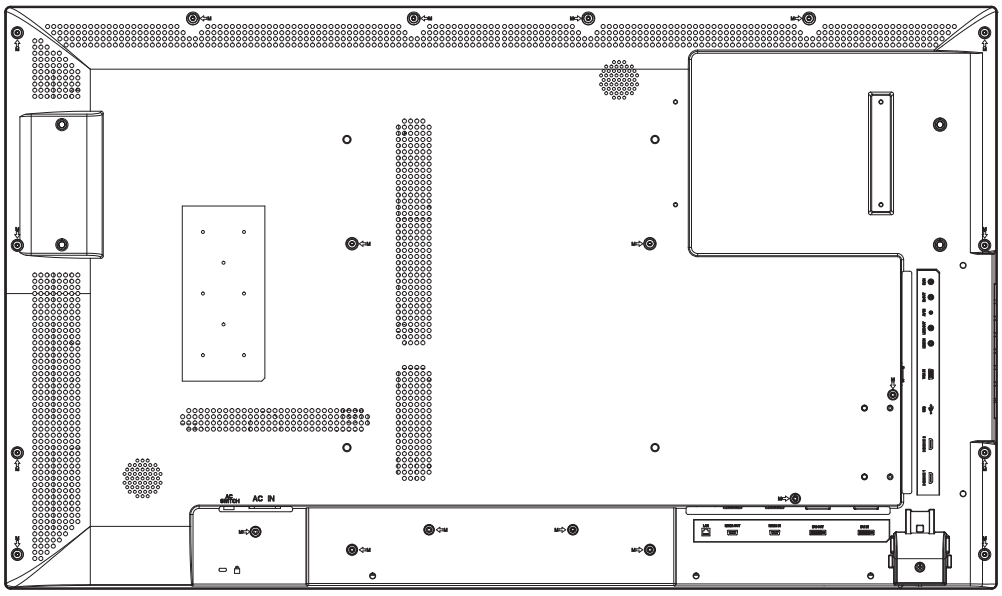
メモ 本機を逆さまや下を向いた状態で設置された場合には、正しい動作が保証されません。

⚠注意 梱包箱から液晶ディスプレイを取り出して設置するまでに仮置きする場合には、出荷時に液晶ディスプレイを包んでいた保護シートを下に敷き、パネルに傷がつかないようにします

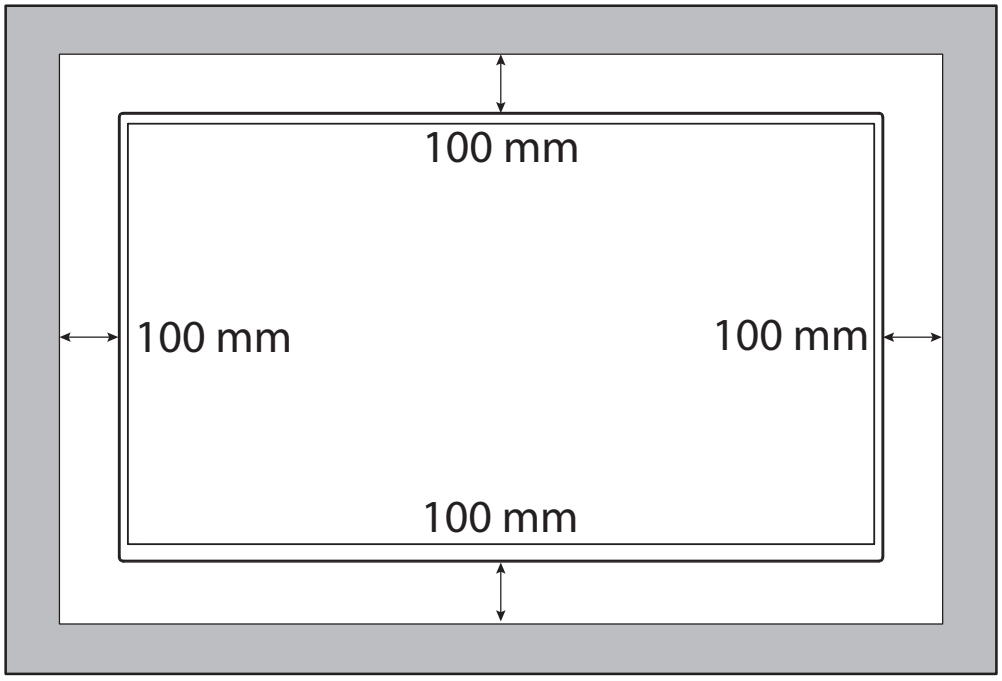
### 筐（きょう）体内に設置する際の換気要件

放熱できるよう、ディスプレイの周囲に隙間を設けてください。

メモ 本機の背面の通気口はふさがないでください。通気口がふさがれた場合は、ディスプレイ内部に熱がこもり、故障の原因になることがあります。
本機の動作保証周囲温度の上限は 40 ℃です。ケースや筐（きょう）体内にモニターを設置する場合は冷却ファンや通気口をケースに設けて、ケースや筐（きょう）体内の温度を40 ℃以下に維持して適切な換気を確実に行ってください。




通気口をふさがないでください。



## 壁または天井用取付部品を使用する

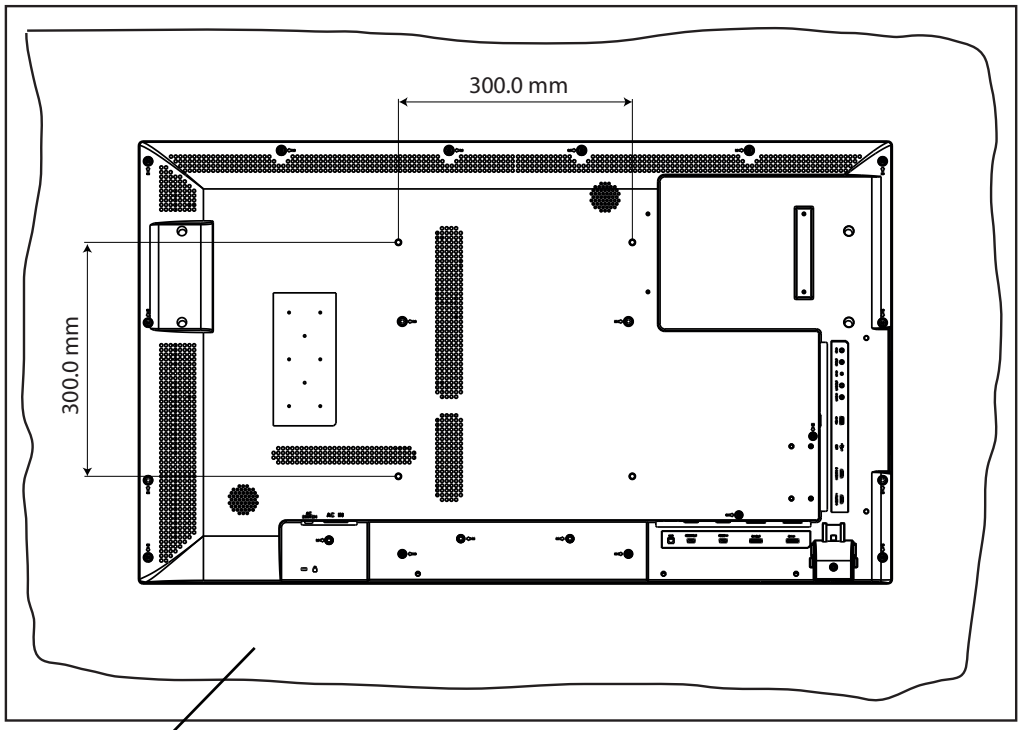
### ディスプレイ表面が下を向いた状態で置く

出荷時に本機を包んでいた保護シートをテーブルに敷き、ディスプレイ表面に傷がつかないようにします。

本機は取付部品なしに使用または設置できません。正しい設置手順に従わない場合は、製品の損傷を引き起こす恐れがあります。また、推奨事項に従わない場合、保証が無効になる場合があります。

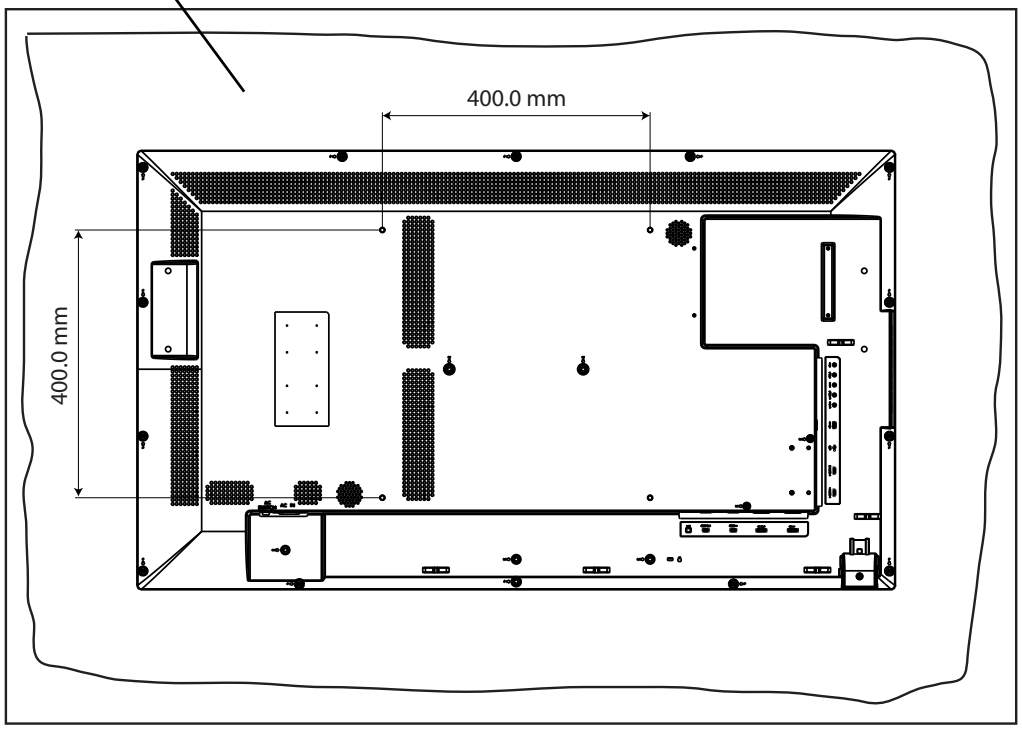
設置には M6 ねじ（ゆるみ止めスプリングワッシャを備え、取付金具の厚さとネジ許容深さ 15mm より短いこと）を使用して、しっかりと締め付けてください。

当社では、VESA 規格、TUV-GS、UL1678 北米規格に準拠した取付部品を使用することを推奨しています。




保護シート

43 インチ




50 インチ /55 インチ /65 インチ

**⚠注意** ディスプレイの落下を防止するために：

- 壁や天井に設置する場合は、市販の取付金具を使用してディスプレイを設置してください。設置の詳しい手順は、取付金具のマニュアルを参照してください。
- けがや損傷の可能性を軽減するために、設置場所については取付金具メーカーとご相談ください。
- 予期せぬ衝撃、地震、その他の災害が発生した際の落下のリスクを軽減するために、壁に設置したディスプレイをロープ固定するなど対応が必要になりますので、使用する取付金具メーカーとご相談ください。
- 地震やその他の災害が発生した際、ディスプレイが転倒または落下する可能性があります。
- ディスプレイを支える十分な強度のあるステンレススチール製のねじを使用してください。
- 取付金具について：
  - ディスプレイを支える十分な強度のある VESA 規格に準拠した市販の取付金具を使用してください。
  - 取付金具を使用する場合、ディスプレイの放熱口をふさがないでください。16 ～ 17 ページを参照してください。
  - 設置する前に、設置面に十分な強度のあることを確認してください。
  - 取付手順と安全な設置手順の詳細は、使用する市販の取付金具のユーザーマニュアルを参照してください。
  - 問題が発生した際に落下や垂れ下がりを防ぐため、複数の金属ブラケットを使用したり、ディスプレイを数か所で支えてください。

# 縦置きまたは横置きに設置する

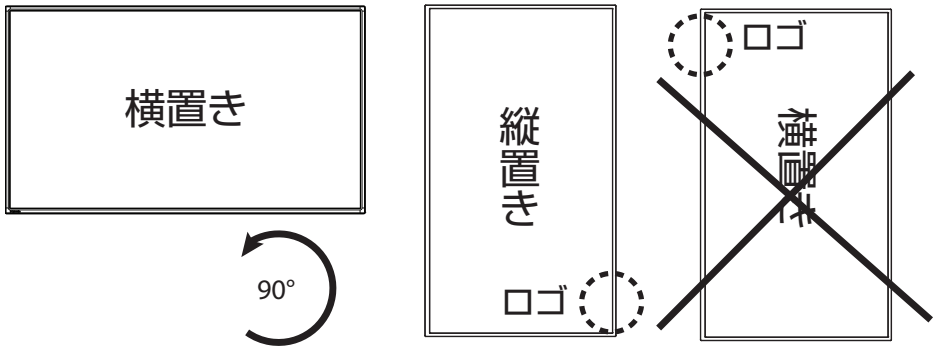
本機は縦置きまたは横置きに設置できます。ディスプレイの向きが、以下のイラストに示すとおりになっていることを確認してください。

**メモ：**
- 本機の動作環境条件（温度）は縦置き／横置きともに 0 ℃～ 40 ℃です。
- 以下のイラストに示すとおりに本機が設置されていない場合（逆さまや下を向いた状態など）、正しい動作が保証されません。

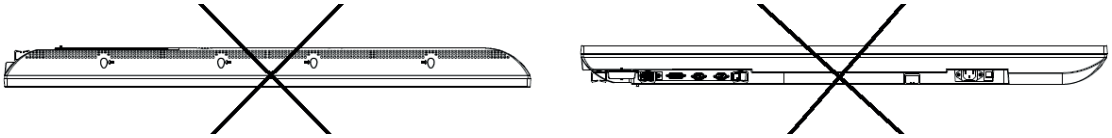
### 縦置きに設置する場合

ディスプレイ正面から見て、ロゴが右側になるように設置してください。

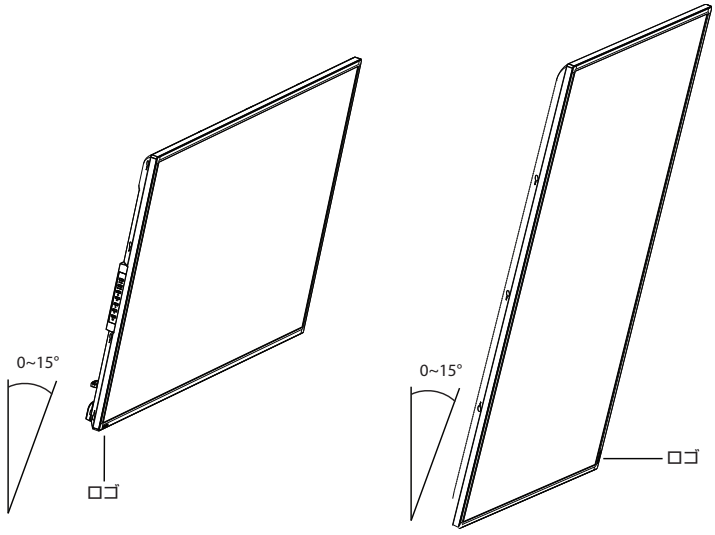
本機では、表示画面を回転できません。映像を縦に表示するには、あらかじめ回転された画像を使用してください。




**本機を上を向いた状態及び下を向いた状態で設置しないでください。**



### 画面を正面または下方へ傾けた状態で設置した場合の動作条件（0˚～ 15˚）




画面を正面または下方へ傾けた状態で設置した場合、以下の動作環境の詳細が適用されます。

- 温度：0 ℃～ 40 ℃（32 ℉～ 104 ℉）
- 湿度：20% ～ 80%（結露のない状態）

### 電源の接続

- 接続の前に本体の主電源が「オフ」になっていることを確認してください。
- できるだけ本機に近い電源コンセントを使い、すぐに手が届くようにしてください。
- 必ず接地接続を行ってください。
- 接地接続は必ず、電源プラグを電源コンセントに差し込む前に行ってください。
- また接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。

## 残像を防ぐ

**⚠注意** ディスプレイに長時間静止画像を表示しないでください。保証対象外の「焼き付き」や残像を引き起こすおそれがあります。

### 静止画面を表示しないようにする

- できる限り、動画を表示するようにしてください。
- 使用しない時は本機の電源を切るか、スケジューラー（40 ページ参照）を使って、1 日であらかじめ決めた時間に自動的に電源が切れるようにしてください。
- 残像を防ぐために、焼き付き防止機能をオンに設定してください。残像を軽減するために、ホワイトピクセルまたはピクセルシフトのいずれかの機能を使用できます。62 ページの表の " **焼き付き防止** " を参照してください。

# 接続手順

**接続を行う前に：**

- 接続を行う前に、すべての接続機器の電源をオフにしてください。
- それぞれの機器のユーザーマニュアルを参照してください。

音声機器や PC の音声出力端子がステレオミニジャックの場合は、低抵抗音声ケーブルを使用してください。高抵抗音声ケーブルは音声レベルに影響を及ぼし、音声のレベルが著しく落ちるおそれがあります。

# アナログビデオソースと接続する

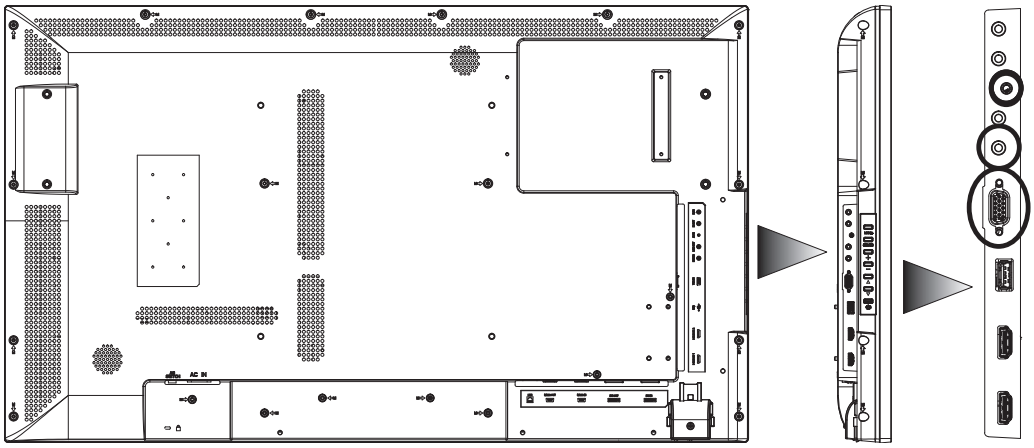
## アナログ接続：

**1** 信号ケーブル（VGA または YPbPr ケーブル）を VGA または AV IN 端子に接続します。

**2** 液晶ディスプレイまたは赤外線リモコンの [SOURCE] ボタンを使用して、AV、コンポーネント、VGA のいずれかを選択します。選択すると、音声が自動的に [LINE IN] に切り替わります。

### 音声の接続：

- 音声ケーブル（ø3.5mm ステレオミニプラグ（市販））を LINE IN コネクタに接続します。音声が自動的に [LINE IN] に切り替わるため、ケーブルを接続するだけで音声が出力されます。



PC や他の機器が接続されているときは、映像を適切な形で自動的に表示します。25 ページの " デジタルビデオソースと接続する " を参照してください。

# デジタルビデオソースと接続する

## デジタル接続：

- **HDMI IN 端子経由の接続**

**1** HDMI1 IN または HDMI2 IN 端子に市販の HDMI ケーブルを接続します。

**2** 液晶ディスプレイの [SOURCE] ボタン、もしくは赤外線リモコンの [SOURCE] ボタンを使用して、接続されたコネクタに合わせて [HDMI1] または [HDMI2] を選択します。

- **DVI-D IN 端子経由の接続**

**1** DVI-D IN 端子に市販の DVI-D ケーブルを接続します。

**2** 液晶ディスプレイの [SOURCE] ボタンまたは赤外線リモコンの [SOURCE] ボタンを使用して、[DVI-D] を選択します。

### 2 番目のディスプレイの接続：

- 市販の DVI-D ケーブルを使用して、1 番目のディスプレイの DVI-D OUT 端子と 2 番目のディスプレイの DVI-D IN 端子を接続してください。

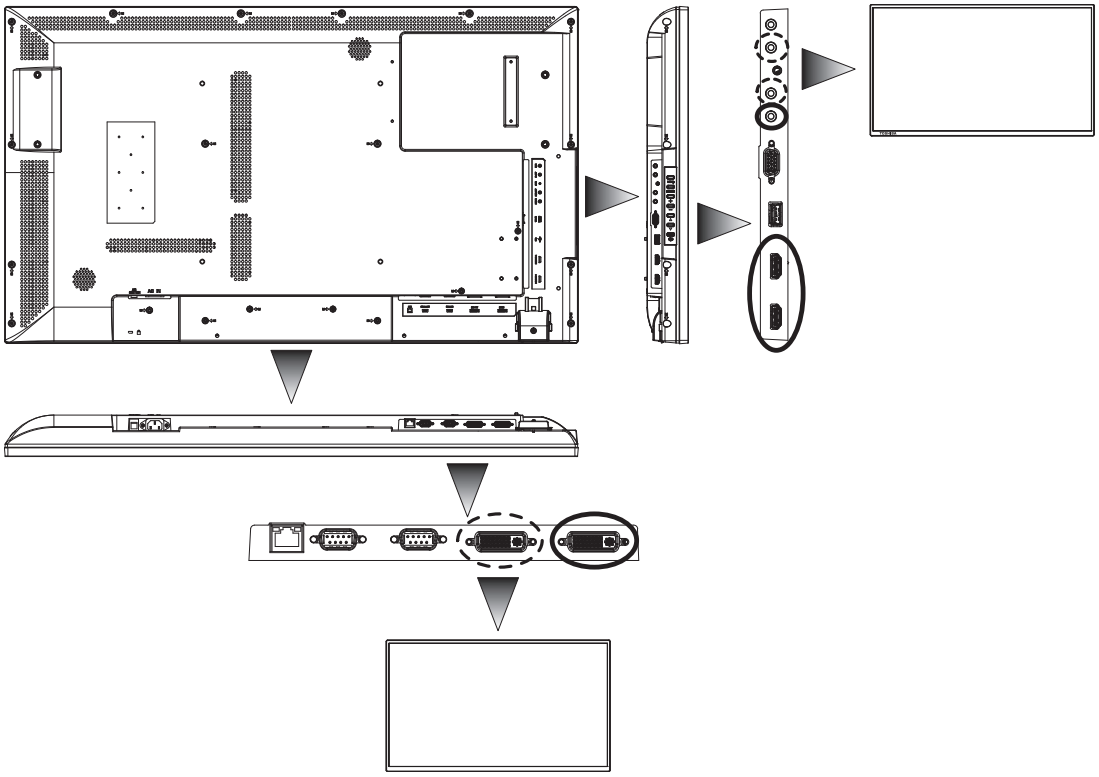
**メモ**

- デイジーチェーン接続により、最大 25 台の液晶ディスプレイを同時接続できます。ただし、使用するケーブル長さや特性により、連続して接続できる台数に制限が発生します。お使いの使用環境で接続可能な液晶ディスプレイの台数を確認することをお勧めします。（推奨接続台数：9 台 2m ケーブル使用時、詳しくは販売店にご相談ください）
- 設定メニューでパワーセーブを選択して、電源をオフに設定します。
- 外部 HDMI 分配器が装備されている場合は、HDMI1/HDMI2 でタイルモードを使用して複数台のディスプレイを接続できます。

### 音声の接続：

- HDMI1/HDMI2 の場合の音声ソースの初期設定は、HDMI ケーブル経由の TMDS 信号です。市販の音声ケーブル（ø3.5mm ステレオミニプラグ）が LINE IN 端子に接続されている場合は、外部音声ソースを使用できます。[LINE IN] を音声入力ソースとして選択する必要があります。38 ページの " 音声設定 " を参照してください。
- 音声を 2 番目のディスプレイに出力するには、市販の音声ケーブル（ø3.5mm ステレオミニプラグ）を使用して、1 番目の LINE OUT 端子と 2 番目の LINE IN 端子を接続してください。HDMI ケーブルが接続されているときは、[LINE IN] を音声入力ソースとして選択する必要があります。38 ページの " 音声設定 " を参照してください。

メモ このイラストでは、ポートの周囲の点線は OUT 端子の接続を示し、正面から見た小さな画面は 2 番目のディスプレイを示しています。



# LAN に接続する

## LAN 経由のディスプレイ接続

本機と PC をハブ経由でネットワークに接続できます。市販のストレートタイプの LAN ケーブルを使用して、本機とハブを接続してください。

### 接続方法

- PC と本機の主電源スイッチをオフにします。電源オン時に接続しようとすると、機器が故障することがあります。
- 市販のストレートタイプの LAN ケーブルを使用して、PC とハブを接続します。
- 市販のストレートタイプの LAN ケーブルを使用して、本機とハブを接続します。
- 2 台以上のディスプレイを接続する場合は、上記の説明のように市販のストレートタイプの LAN ケーブルを使用して、本機とハブを接続します。

メモ
- 市販のクロスタイプの LAN ケーブルを使用する場合は、ハブを経由せずに本機と PC を一対一で接続できます。ただし、PC 側が非対応の場合がありますので、動作環境をあらかじめ確認することを推奨します。
- [LAN] 制御が選択される場合、[ スタンバイモード ] を [ 通常 ] に設定してください。LAN 制御選択時の電源オン機能は、[ スタンバイモード ] が [ 省エネ ] のときには動作しません。スタンバイモード設定の詳細は、61 ページを参照してください。

# 電源コードをディスプレイに接続する

## 電源を接続する

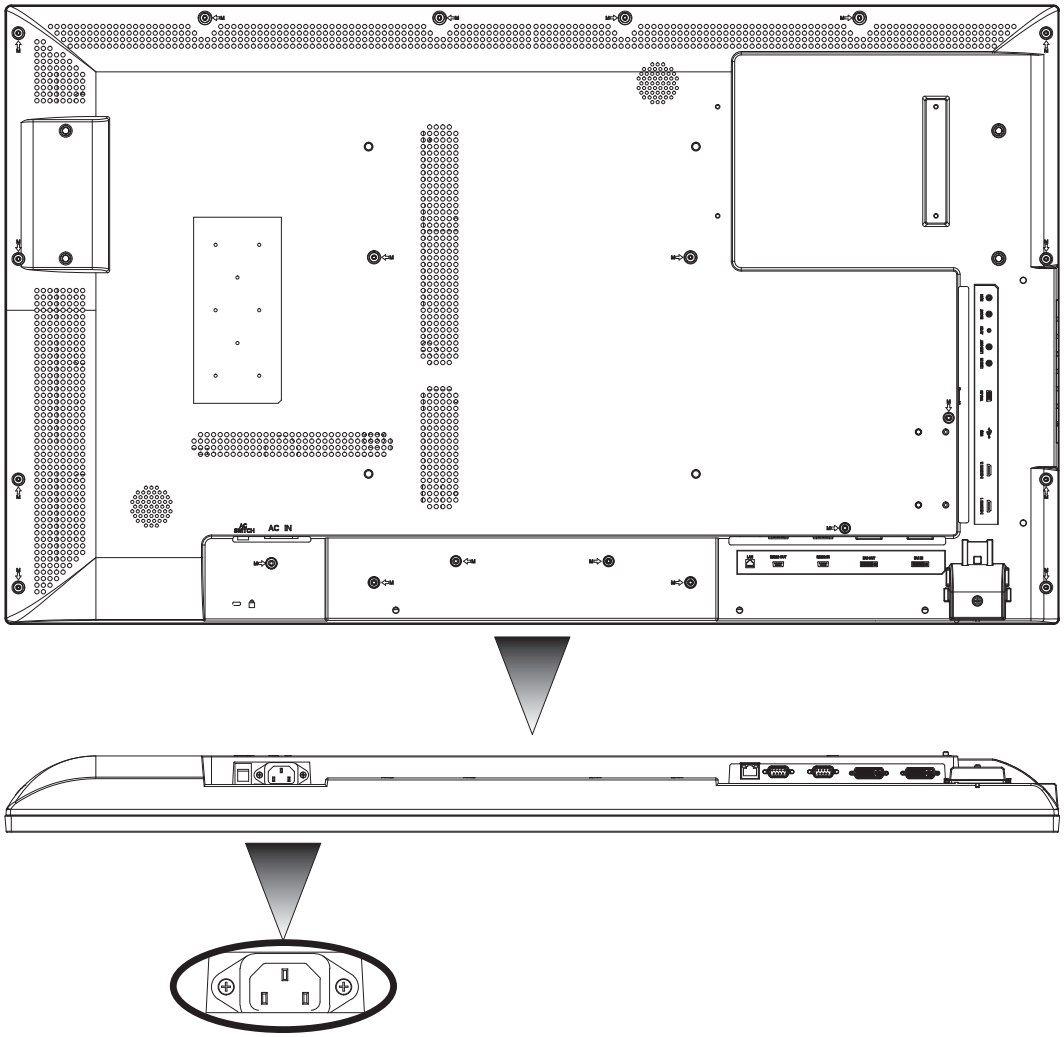
### 接続を行う前に

**1** 主電源のスイッチがオフであることを確認します。

メモ AC 電源コードは付属のもの以外は使用しないでください。
電源コードの予期せぬ外れを防ぐためにケーブルクランプを使用してください。

**2** 電源コードを AC IN に差し込みます。

- 電源コードの差し込み口を AC IN に完全に差し込みます。
- 電源コードの抜き差しを短い間に繰り返し行わないでください。


AC IN

# 第３章
# 操作

## すべての接続機器の電源をオンにする

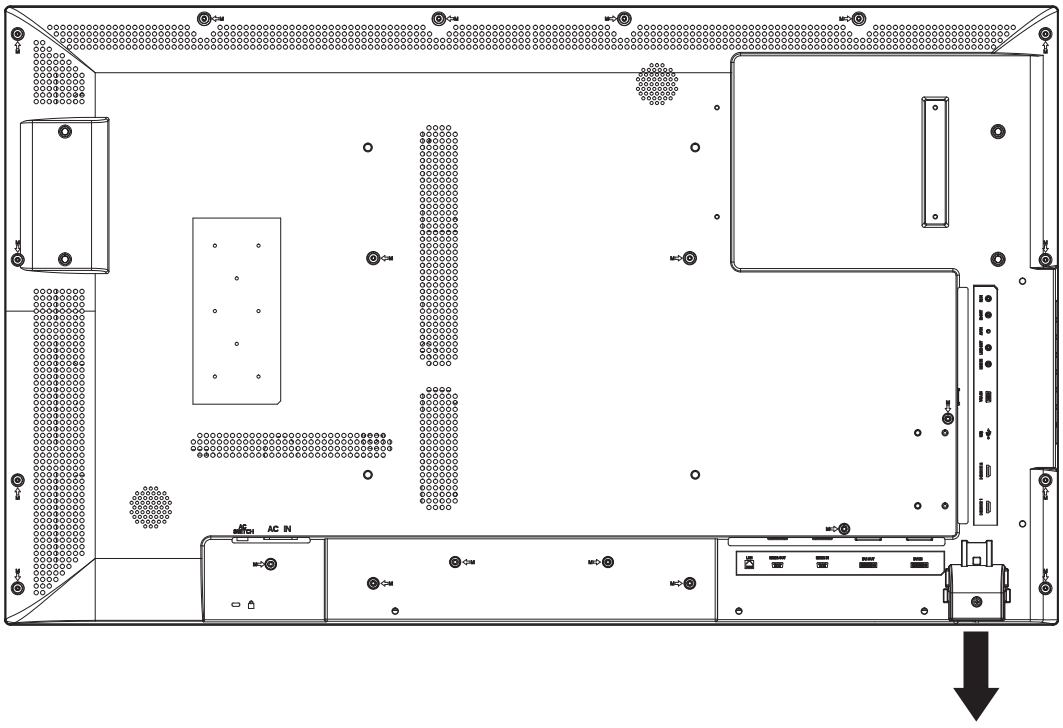
**1** PC や DVD プレーヤーなどのすべての接続機器の電源をオンにします。

**2** 赤外線リモコンセンサーを設定します。

赤外線リモコンを使用する前に、液晶ディスプレイのリモコンセンサーの位置を決めます。

リモコンセンサーは液晶ディスプレイ背面の左側にある小さな黒いボックスです。センサーが所定の位置にロックされるまで、液晶ディスプレイから遠ざけるようにスライドします（イラストの右下を参照）。

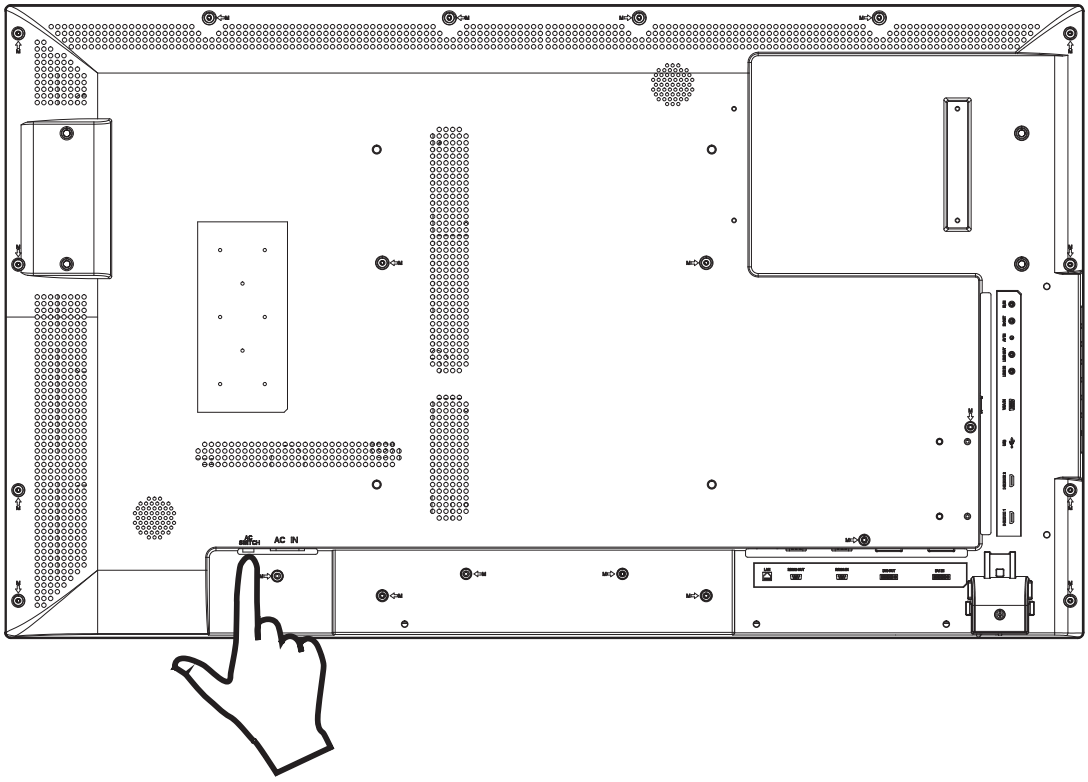
センサーを元の位置に戻すには、この手順を逆の順序で実行します。



**3** 主電源スイッチをオンにします。

電源インジケーターが緑に点灯し、ディスプレイがオンになります。

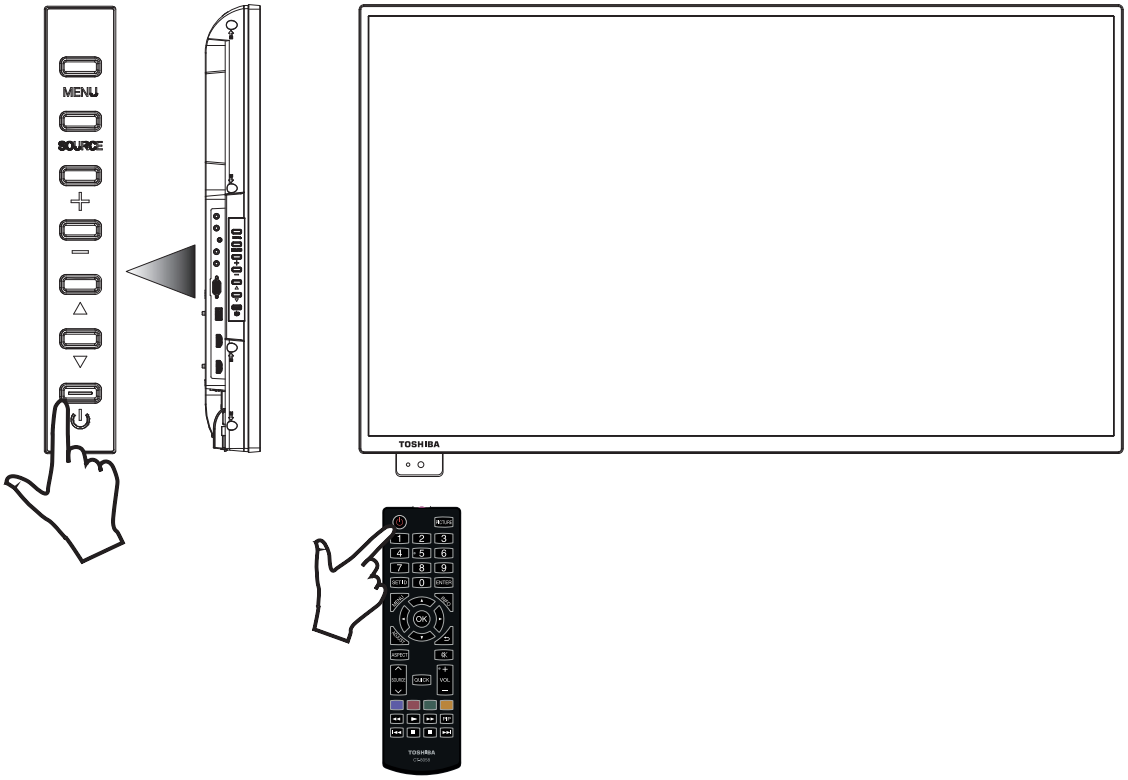
主電源スイッチがオフ（電源インジケーターは消灯）時は、背面のコントロールボタン、赤外線リモコン、スケジューラーの設定は動作しません。これらを使用する場合、主電源スイッチがオン（電源インジケーターは点灯）であることを確認してください。




主電源スイッチ　　（例）43 インチ画面の電源

**4** 本機をオンにします。

本機の左側にある [POWER] ボタンまたは赤外線リモコンの左上の [POWER] ボタンを押します。



## 電源管理機能

節電機能として、本機は下記 2 つの電源オフ機能に対応しています。

- **スリープタイマー**
  - 現在のソースの信号状況に関係なく、タイマーを設定してディスプレイの電源をオフにします。OSD メニューのスリープタイマーには、5 分、15 分、30 分、60 分、90 分、120 分、180 分、オフの選択肢があります。
  - この値は保存されません。1 回のみ実行されます。初期設定は [ オフ ] です。
- **パワーセーブ**
  - 現在のソースからの入力信号がないときに、ディスプレイの電源をオフにします。パワーセーブは 30 秒～ 300 秒の範囲で調整できます。OSD メニューで、このタイマーを無効にできます。
  - この値は保存されます。初期設定は 300 秒です。
  - VGA または HDMI ソース（DVI-D を除く）のパワーセーブにより、液晶ディスプレイがスタンバイモードに切り替わる場合は、現在のソースから再び入力信号が入力されると、ディスプレイの電源が自動的にオンになります。

**メモ** 本機に接続されるすべてのビデオ機器が自動電源オン機能に対応しているわけではありません。

- **スケジューラー**
  - 電源オン時間と電源オフ時間を決める 7 つのスケジュールを設定できます。詳しい設定は、スケジューラー機能を参照してください。

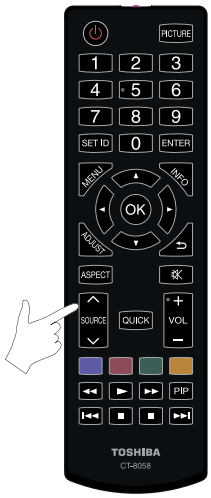
**メモ** ディスプレイには各設定の優先度を設定する優先度モードがあります。

- スケジューラーの設定のほうが、スリープタイマーとパワーセーブの設定よりも優先度が高くなります。
- スリープタイマーとパワーセーブは同じ優先度ですが、両方が有効の場合は、パワーセーブまたはスリープタイマーの設定次第で、電源オフ時間が決定します。

| 電源インジケーター | |
|---|---|
| ステータス | LED |
| 電源オンモード | 緑 |
| 電源オフモード | 赤 |
| “スケジューラー” が有効時に電源スタンバイ | オレンジ |
| 主電源オフ | オフ |
| 診断（不具合を検出） | 赤点滅時：「最寄りのサービス技術認定店にお問い合わせください。」 |

# ビデオ入力を選択する

## 赤外線リモコンの [SOURCE] ボタンで選択する

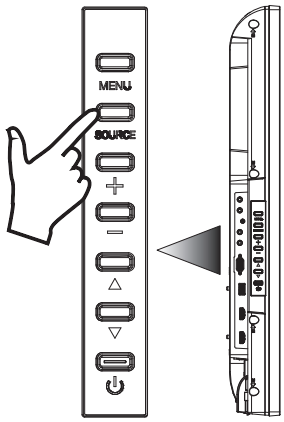


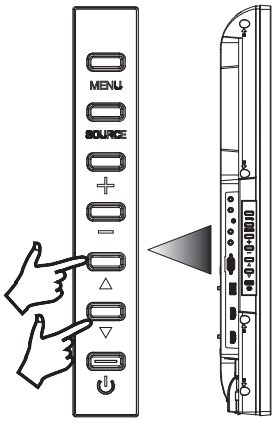

赤外線リモコンの [SOURCE] ボタンを押して、上（▲）/ 下（▼）ボタンを使用して目的のビデオ入力を選択できます。

ビデオ入力の選択肢は、[AV]、[ コンポーネント ]、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[VGA]、[USB] です。

## 本体の [SOURCE] ボタンで選択する

本体の [SOURCE] ボタンを押すとビデオ入力の OSD メニューが表示されます。上（▲）/ 下（▼）ボタンを使用して目的のビデオ入力を選択できます。




ビデオ入力の選択肢は、[AV]、[ コンポーネント ]、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[VGA]、[USB] です。[SOURCE] ボタンを再び押すと、選択したビデオ入力が表示されます。

選択したビデオ入力は、数秒後に自動入力されます。

## 外部機器を制御する

接続外部機器を制御するには、液晶ディスプレイに映像を表示します。

# OSD の言語を選択する

赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。

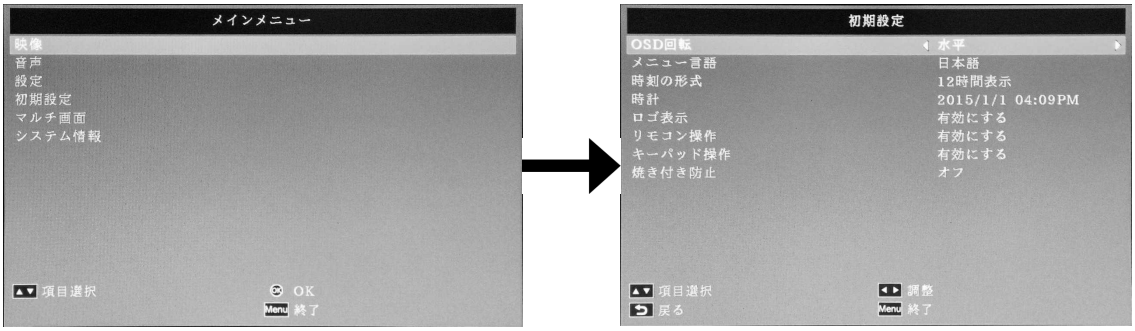
OSD メニュー画面の [ 初期設定 ] メニュー内にある [ メニュー言語 ] を使用して、OSD の言語を選択できます。62 ページを参照してください。

# 初期設定

**1** 赤外線リモコンの [MENU] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。

**2** 赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある下（▼）ボタンを使用して、[ 初期設定 ] メニューを選択します。

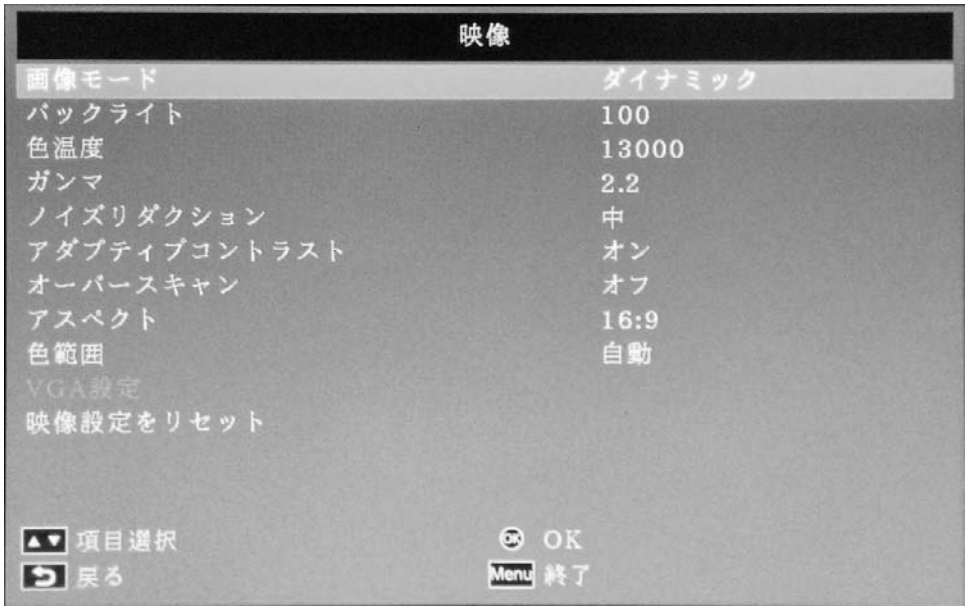
**3** 赤外線リモコンの[OK]ボタンまたは液晶ディスプレイの左側にある[SOURCE]ボタンを使用して、[初期設定 ] メニューに入ります。




| 初期設定 | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| OSD 回転 | OSD の向きを選択します。 |
| メニュー言語 | メニューの言語を選択します。 |
| 時刻の形式 | 時刻の形式を設定します。 |
| 時計 | 時計の時刻を設定します。 |
| ロゴ表示 | 東芝のロゴを表示 / 非表示にします（[ 有効にする ]/[ 無効にする ]）。 |
| リモコン操作 | リモコンの操作を有効 / 無効にします（[ 有効にする ]/[ 無効にする ]）。<br>注意 : リモコン操作が無効の場合、[MENU] / 左 / 右 / 上 / 下の順にリモコンのボタンを押して、リモコンの操作を有効にできます。この時にキーパッド操作を無効にしていた場合には、キーパッド操作も有効になります。 |
| キーパッド操作 | キーパッドの操作を有効 / 無効にします（[ 有効にする ]/[ 無効にする ]）。 |
| 焼き付き防止 | 焼き付き防止を有効 / 無効にします（[ オン ]/[ オフ ]）。 |

# 画像モードを選択する

赤外線リモコンの [PICTURE] ボタンを使用して、表示する画像に適した画像モードを選択できます。



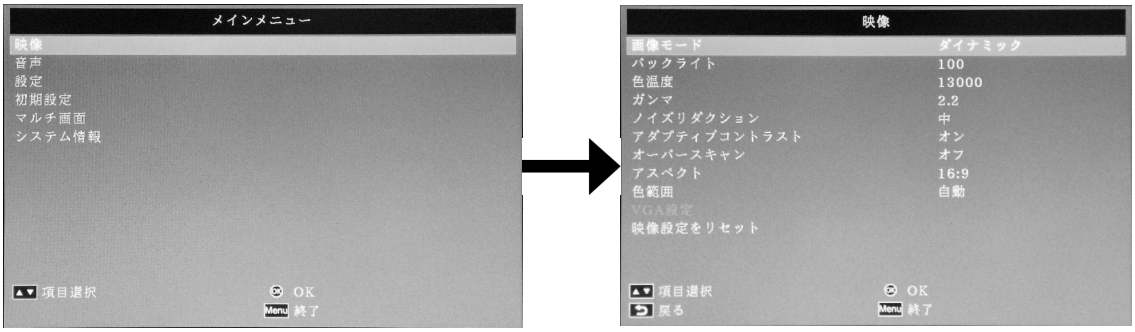

| 画像モード | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| ダイナミック | 明るさが最大になります。 |
| シネマ | 映画の視聴に適しています。 |
| sRGB | sRGB 対応機器の色合わせに適した設定です。 |
| カスタム | 以前に保存したカスタム画像設定を使用します（デフォルトでは [ 標準 ] の設定を使用 )。OSD メニュー画面の [ 画像モード ] 内の [ カスタム ] で設定します。 |
| スタンダード | 工場出荷時設定です。 |

- [ シネマ ]、[sRGB] は入力信号に合わせて選択可能となります。

# 画像の調整

赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。

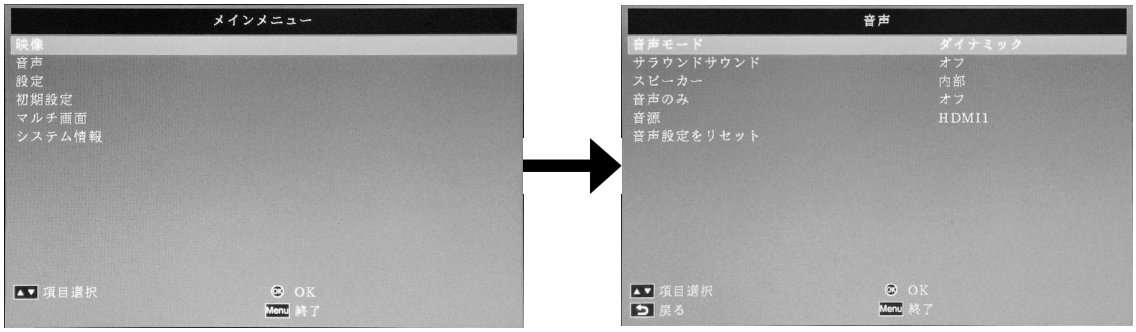
OSD メニュー画面の [ 画像モード ] を使用して、輝度、コントラスト、シャープネスなどの画像設定を調整して、目的の画質を得ることができます。




| 画像の調整 | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| コントラスト | 0 ～ 100 |
| 輝度 | 0 ～ 100 |
| シャープネス | 0 ～ 10 |
| 色温度 | 5000K ～ 10000K/100k ステップ、13000K、カスタム |

# 音声設定

OSD メニューの [ スピーカー ] 設定で、内蔵スピーカーまたは外部ステレオスピーカーを選択します。赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。
OSD メニュー画面の [ 音声 ] メニュー内にある [ スピーカー ] を使用して、スピーカーを選択できます。[ 音声 ] メニュー内にある [ 音源 ] を使用して、音声入力ソースを選択できます。この設定は、選択可能なすべての音源選択肢（LINE IN、HDMI2 など）を表示します。




| 音声設定 | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| 音声モード | 音声モードの設定を設定します。 |
| サラウンドサウンド | サラウンドサウンドをオン／オフします。 |
| スピーカー | スピーカーを選択します（[ 内部 ]/[ 外部 ]）。 |
| 音声のみ | ビデオなしで音声を出力します（[ オン ]/[ オフ ]）。 |
| 音源 | 音声ソースを選択します。 |
| 音声設定をリセット | 工場出荷設定に戻します。 |

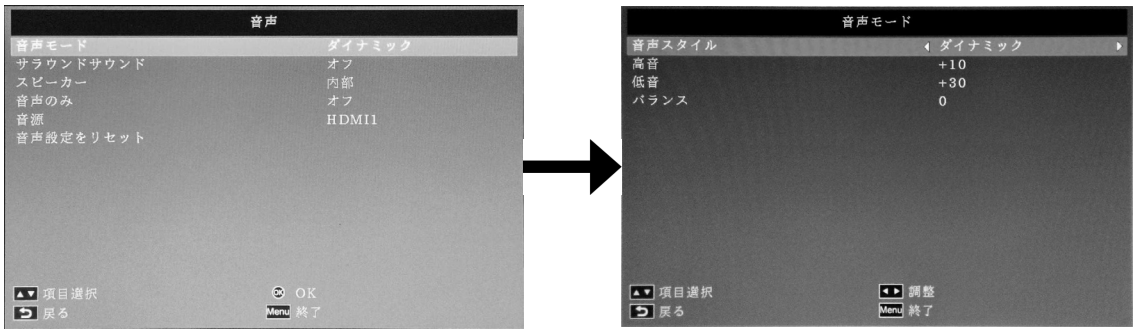
## 高音、低音、バランスの調整

OSD メニュー画面の [ 音声 ] メニューを使用して、スピーカーの高音、低音、バランスを調整できます。

調整するには、赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押して、OSD メニューを表示します。

[ 音声 ] メニュー内にある [ 音声スタイル ] を使用して、音声スタイルを選択または編集できます。

[ スタンダード ]（工場出荷設定）、[ ダイナミック ]（音声を強調するための設定）、[ カスタム ]（以前に保存したカスタム音声設定を使用）の 3 つの選択肢があります。初期設定では、[ カスタム ] には [ スタンダード ] の設定を使用します。



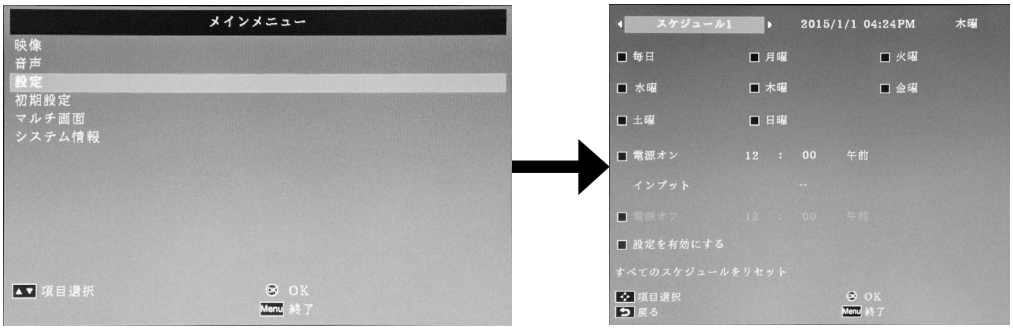

| 高音、低音、バランスの調整 | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| 音声スタイル | 音声スタイルを選択または編集できます。 |
| 高音 | 高音の設定を調整します。 |
| 低音 | 低音の設定を調整します。 |
| バランス | バランスの設定を調整します。 |

# スケジューラー設定

赤外線リモコンの [QUICK] ボタンを使用して、電源オン / オフと入力選択のスケジュールをプログラム（設定）することができます。

赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押し、OSD メニュー画面 [ 設定 ] メニュー内の [ スケジューラー ] を選択して、電源オン / オフと入力選択のスケジュールをプログラム(設定)することもできます。

# スケジュールの設定方法




### プログラム番号の選択

画面左上にプログラム番号 1 ～ 7 を示すボックス上にカーソルがある状態で、左（アイコン ◀）／右（アイコン ▶）ボタンを使用して目的のプログラム番号を選択します。スケジュール 1 ～スケジュール 7 より選択できます。

選択したプログラム番号を有効にするには、「設定を有効にする」のチェックボックスで [OK] ボタンを押してチェックを入れます。番号を無効にするには、「設定を有効にする」のチェックボックスのチェックを外します。

### それぞれのプログラムのスケジューラー設定をする

スケジューラーでは以下の設定が可能です。

各項目は、上下左右ボタンを使って移動します。

各項目において OK ボタンを押してチェックボックスにチェックを入れ選択、または、チェックボックスのチェックを外し選択解除ができます。

電源オン / オフ時間の項目では、時間表示の箇所を選択し、OK ボタンを押すと、上下ボタンで時間設定ができます。時間設定を終了するには、戻る（⮌）ボタンを押します。

インプットの項目は左右ボタンを押して、入力ソースを選択することができます。

| スケジューラー設定 | |
|---|---|
| **設定** | **詳細** |
| スケジュール 1 ～ 7 | 最大 7 つのスケジュールを選択してプログラムできます。 |
| 毎日 | この項目を選択すると、スケジュールを毎日実行します。 |
| 月曜～日曜 | スケジュールを実行したい週の曜日を選択します。 |
| インプット | 目的の音声映像入力ソースを選択します。 |
| 電源オン | 電源がオンになる時刻を設定します。 |
| 電源オフ | 電源がオフになる時刻を設定します。電源オフのスケジュールを設定したくない場合は、本項目をチェックしないでください。 |
| 設定を有効にする | 現在のスケジュールを有効 / 無効にします。 |
| すべてのスケジュールをリセット | すべてのスケジュールを工場出荷設定（スケジュールなし）に戻ります。 |

### スケジュールの確認

スケジュールを確認するには、赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの左側にある [MENU] ボタンを押して、OSD メニュー画面の [ スケジューラー ] メニューを表示します。

[ スケジューラー ] メニューを終了する前に電源をオフすると、スケジューラーの設定がキャンセルされることがあります。

**メモ**

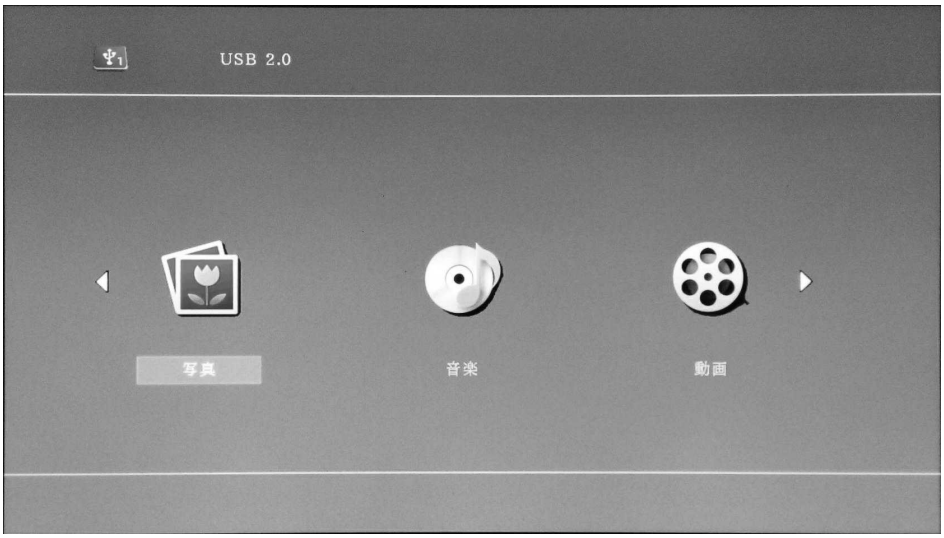
- スケジュールを設定する前に、[ 日付と時刻 ] を使用して、現在の日付と時刻を必ず確認してください。
- スケジューラーの画面の終了時に、設定が保存されます。
- 2 つ以上のスケジュールが有効になっている場合、タイマー設定に合わせてこれらのスケジュールが実行されます。個別のスケジュール間で時間範囲が重なる場合は、後から開始されるスケジュールに変更して、最後に実行されたスケジュールが完了すると電源がオフになります。
- 2 つ以上のスケジュールの電源オン / オフ時間が同じ場合、一番若いプログラム番号の電源オン / オフ時間が実行されます。
- スケジュールが設定されると、オフタイマーが無効になります。
- 電源オン時間と電源オフ時間を同時刻に設定できません。
- 電源オフ時間は、電源オン時間が設定されていないと設定できません。
- 停電やその他の原因で主電源がオフまたはブレーカーがトリップ (遮断動作) しても、スケジュールのプログラムは保持され、主電源がオンに戻ると実行されます。ただし、主電源が168 時間以上オフの状態になると、システムの時刻が正確ではなくなります。

# USB ドライブのメディアを視聴する

1 USB ドライブを USB ポートに挿入します。

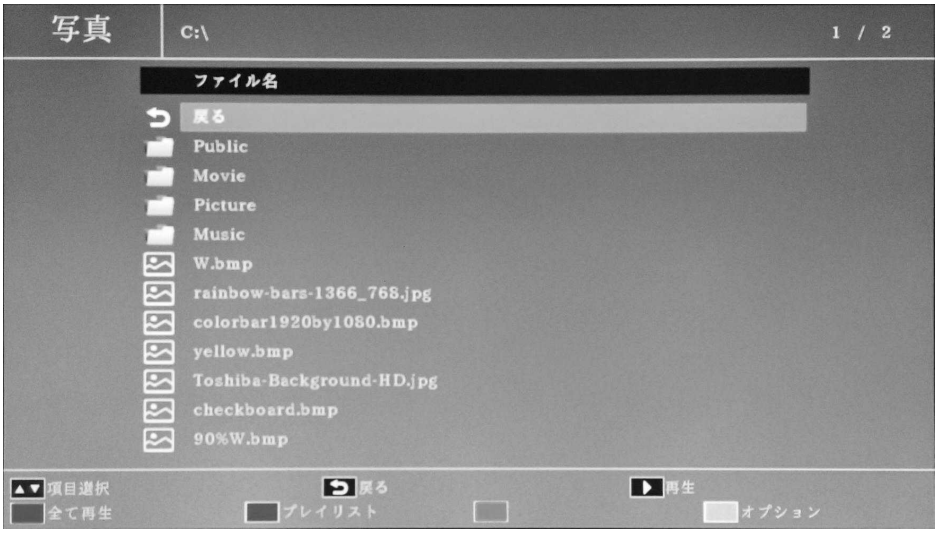
2 赤外線リモコンまたは液晶ディスプレイの [SOURCE] ボタンを使用して、USB を入力ソースとして選択します。

3 OSD メニュー画面に、[写真]、[音楽]、[動画] の３つの選択肢が表示されます。赤外線リモコンの左（◀）と右（▶）のボタンを使用して、視聴したいメディアの種類を選択し、[OK] ボタンを押して選択を確定します。




4 状況に応じて、USB ドライブが「C」として表示されます。赤外線リモコンの [OK] ボタンを押してこのドライブを開きます。

5 赤外線リモコンの上（▲）と下（▼）のボタンを使用して、USB ドライブのコンテンツを検索します。[OK] ボタンを押して、視聴したいメディアを開きます。



**6** 音声映像制御ボタン（早戻し（◁◁）、再生（▷）、早送り（▷▷）、前（|◁◁）、停止（□）、一時停止（▯▯）、次（▷▷|）を使用して、メディアファイルを検索して開きます。

**7** この方法でメディアファイルを視聴している間、赤外線リモコンの色のついたボタンが有効になります。
各ボタンの機能はコンテキストで決定され、液晶ディスプレイの OSD メニューの一番下に表示されます。49 ページのプレイガイド利用時のリモートキーを参照してください。
液晶ディスプレイのメニューボタンの機能も変わります。以下の表に、メディアソースに応じたメニューボタンのそれぞれの機能を説明します。

**メディアソースに応じたメニューボタンの機能**

| キーパッドの定義 | メディアソース | | |
|---|---|---|---|
| キー名称 | メディアルートページ | メディアリスト / プレイリストモード | メディアプレイヤーモード |
| メニュー | 入力ソースキー | 終了 | 終了 |
| 入力 | OK | ファイル上：再生 / 停止<br>フォルダ上：[OK] キー<br>OSD のダイアログ上：[OK] キー | 再生 / 停止 |
| 音量を上げる | [ 右 ] キー | [ 右 ] キー | 音量を上げる |
| 音量を下げる | [ 左 ] キー | [ 左 ] キー | 音量を下げる |
| 上 | 上キー | 上キー | 次の画像 / 音楽ファイル / 動画 |
| 下 | 下キー | 下キー | 前の画像 / 音楽ファイル / 動画 |
| 電源 | 電源オフ | 電源オフ | 電源オフ |

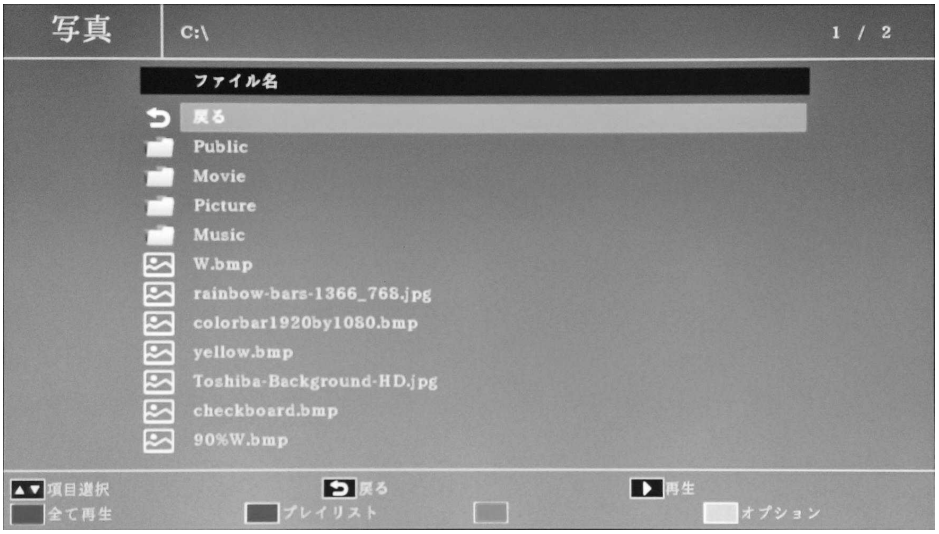
## プレイリストを設定する

**1** メディアタイプのメニュー（[ 写真 ]、[ 音楽 ]、[ 動画 ]）の中から 1 つ選択します。

**2** USB ドライブが「C」として表示されます。赤外線リモコンの [OK] ボタンを押してこのドライブを開きます。

**3** 赤外線リモコンの上（▲）と下（▼）のボタンを使用して、USB ドライブのコンテンツを検索します。[ 赤 ] ボタンを押して、プレイリストの機能を表示します。

**4** プレイリストのメニューが表示されます。赤外線リモコンの上（▲）と下（▼）のボタンを使用して、ファイルを検索して開きます。[OK] ボタンを押して、選択したファイルをプレイリストに追加します。



**5** 色のついたボタンを使用して、プレイリストのメニューの選択肢を選択します。

- [ 青 ]：選択したファイルをプレイリストに保存します。
- [ 赤 ]：キャンセルして、前のメニューに戻ります。
- [ 緑 ]：既存のプレイリストをロードします。
- [ 黄 ]：現在のプレイリストで選択したすべてのファイルをクリアします。

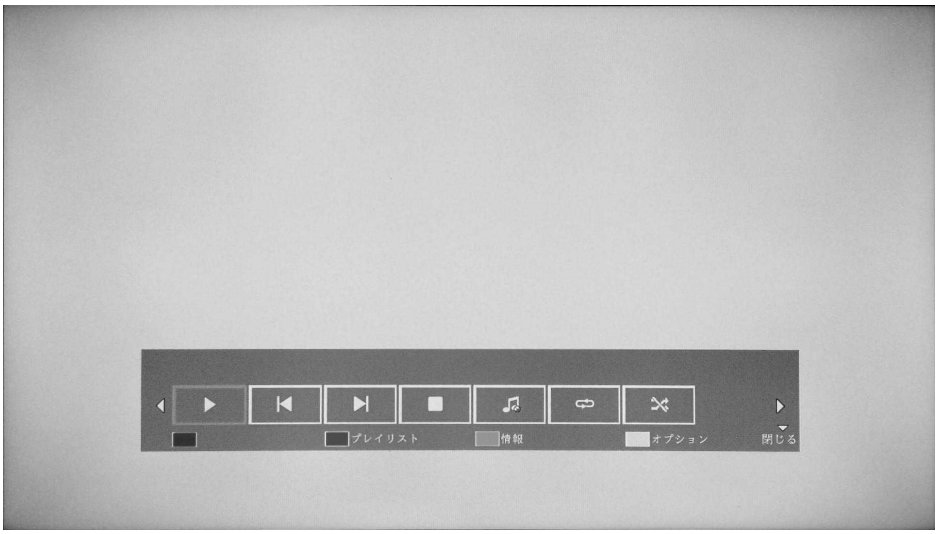
**6** プレイリストが定義されていない場合、[ 青 ] ボタン（全て再生）、[OK] ボタン、[ 再生 ] ボタン（▷）のいずれかを押すと、現在のフォルダのすべてのファイルを再生します。

**メモ** プレイリストを保存せずに他の入力ソースに切り替えると、作成中のプレイリストは破棄されます。

## 音楽をバックグラウンド再生する

このアイコンで、音楽をバックグラウンド再生します。写真が格納されているフォルダに音楽も含まれている場合は、写真を視聴している間に音楽をバックグラウンド再生できます。

**1** 上（▲）ボタンでプレイガイドを表示します。




**2** 赤外線リモコンの左（◀）と右（▶）のボタンを使用して、音楽をバックグラウンド再生するアイコンを選択し、[OK] ボタンを押して選択を確定します。

**3** 音楽をバックグラウンド再生するアイコンは、再生可能な音楽ファイルがないと機能しません。

## スライドショー設定

写真の視聴モード時に、スライドショーを使用して、選択可能なすべての写真（またはプレイリストのすべての写真）を視聴できます。

[ 黄 ] ボタンを使用して、スライドショーのオプションを表示します。

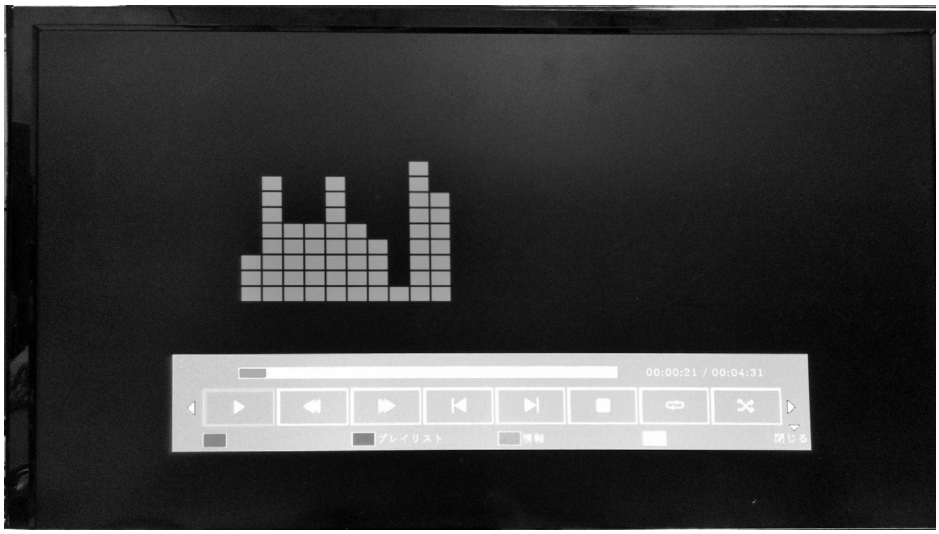
**1** **切換時間**：スライドショーの各画像を表示されるまでの待ち時間を設定します。

- 3 秒～ 20 秒 /1 秒間隔

**2** **切換効果**：スライドショーの画像の切換効果の種類を設定します。

- オフ
- スクロール左
- スクロール右
- スクロール上
- スクロール下
- ボックスイン
- ボックスアウト

## プレイリストを再生する




プレイリストの再生している間、追加機能を提供するプレイガイドを利用できます。上（▲）ボタンを使用して、機能を表示します。
左（◀）と右（▶）のボタンを使用して機能を選択します。
[OK] ボタンを使用して、機能の選択を確定します。[ 情報 ] ボタンを使用してプレイガイドを非表示にします。

| プレイガイドの機能 | |
|---|---|
| **リモートキー** | **機能** |
| ⏯ | 一時停止 / 再生 |
| ⏩ | 早送り（[ 写真 ] モードでは利用できません） |
| ⏪ | 早戻し（[ 写真 ] モードでは利用できません） |
| ⏭ | 次の写真 / トラック / ファイル |
| ⏮ | 前の写真 / トラック / ファイル |

| プレイガイドの機能 | |
|---|---|
| **リモートキー** | **機能** |
| □ | 再生を停止する |
| ♫ | 音楽をバックグラウンド再生 / 停止（[ 写真 ] モードのみで利用できます。この機能が利用できない場合は、ボタンを押しても動作しません。） |
| ⇆ | リピート：すべてのファイルを繰り返し連続再生します。 |
| ⤮ | シャッフル：すべてのファイルをランダム再生します。 |

| プレイガイド利用時のリモートキー | | | |
|---|---|---|---|
| **リモートキー** | **写真** | **音楽** | **動画** |
| ▲ | プレイガイドを表示 | プレイガイドを表示 | プレイガイドを表示 |
| ▼ | プレイガイドを非表示 | プレイガイドを非表示 | プレイガイドを非表示 |
| ◀ / ▶ | 項目を選択（再生 / 停止 / 上にスキップ / 下にスキップ / 停止 / 音楽 / リピート / シャッフル / 切換時間 / 切換効果） | 項目を選択（停止または再生 / 早送り / 早戻し / 上にスキップ / 下にスキップ / リピート / シャッフル） | 項目を選択（停止または再生 / 早送り / 早戻し / 上にスキップ / 下にスキップ / リピート / シャッフル） |
| OK | 項目を選択（再生 / 停止 / 上にスキップ / 下にスキップ / 停止 / 音楽 / リピート / シャッフル / 切換時間 / 切換効果） | 項目を選択（停止または再生 / 早送り / 早戻し / 上にスキップ / 下にスキップ/リピート/情報） | 項目を選択（停止または再生 / 早送り / 早戻し / 上にスキップ / 下にスキップ/リピート/情報） |
| ▷ | 選択した項目を再生 | 選択した項目を再生 | 選択した項目を再生 |
| □ | 停止してリスト画面に戻る | 停止してリスト画面に戻る | 停止してリスト画面に戻る |
| ▯▯ | スライドショーを一時停止 | 再生を一時停止 | 再生を一時停止 |
| ▷▷ | 未使用 | 早送り | 早送り |
| ◁◁ | 未使用 | 早戻し | 早戻し |
| ▷▷\| | 次の写真 | 次のトラック | 次のファイル |
| \|◁◁ | 前の写真 | 前のトラック | 前のファイル |
| [ 青 ] | 未使用 | 未使用 | 未使用 |

| プレイガイド利用時のリモートキー | | | |
|---|---|---|---|
| **リモートキー** | **写真** | **音楽** | **動画** |
| [ 赤 ] | [ プレイリスト ]: プレイリストの詳細を表示 | [ プレイリスト ]: プレイリストの詳細を表示 | [ プレイリスト ]: プレイリストの詳細を表示 |
| [ 緑 ] | [ 情報 ]: 現在のファイルの詳細を表示 | [ 情報 ]: 現在のファイルの詳細を表示 | [ 情報 ]: 現在のファイルの詳細を表示 |
| [ 黄 ] | [ オプション ]: スライドショーのオプション | 未使用 | 未使用 |
| INFO | プレイガイドを表示 / 非表示 | プレイガイドを表示 / 非表示 | プレイガイドを表示 / 非表示 |
| ⮌ | リスト画面に戻る | リスト画面に戻る | リスト画面に戻る |

# 通信による遠隔制御

**メモ** コマンドセットなどの制御機能の詳細は、お住まいの地域の代理店にお問い合わせください。

### 1 RS-232C による制御

ディスプレイをリモートで制御するために、以下の 2 つの通信インターフェースに対応しています。
どちらを使用するかは、メニューの中にある通信インターフェイスで選択してください。

i. RS-232C：
   RS-232C クロスケーブル（リバース）を使用。
   PC の 25 ピンのシリアルポート端子と接続するには、市販の変換アダプタが必要です。
   RS-232C で直接接続するには、RxD、TxD、GND 配線を使用してください。
ii. LAN：イーサネットネットワーク用の RJ45 コネクタを使用。

この 2 つの通信インターフェースを使用して、ディスプレイをリモートで制御できます。

以下の制御コマンドの操作に対応しています。

**制御コマンドの機能の概要**

| 主な操作 | 説明 |
|---|---|
| リセット | 設定を初期設定に戻します。映像リセット、音声リセットなどのコマンドをリセットします。 |
| 電源オン / 電源オフ | 液晶ディスプレイをオンまたはオフにします。 |
| 音声コントロールと消音 | 音量を調整します。 |
| 入力ソース | 入力信号を切り換えます。 |
| 画像関連項目 | [ 画像モード ]、[ バックライト ]、[ オーバースキャン ] などを調整します。 |
| 音声関連項目 | 音声モード、スピーカー、音声のみなどを調整します。 |
| マルチディスプレイ制御関連項目 | [ 画面位置 ]、[ 画面 ID] などの [ マルチ画面 ] メニューの設定に使用する項目です。 |
| 初期設定関連項目 | [ 初期設定 ] では、コマンドによる [ メニュー言語 ]、[ 時計 ]、[ 時刻の形式 ]、[OSD 回転 ] などの項目の調整もできます。例えば、言語を選択すると、画面のメニュー言語を変更できます。 |

## 2 コマンドプロトコル

i. 通信プロトコルの設定は以下のとおりです：

| 通信設定 | |
|---|---|
| **プロトコル** | **RS-232C** |
| ビットレート | 9600 [bps] |
| データ長 | 8 [bit] |
| パリティビット | なし |
| ストップビット | 1 [bit] |
| フロー制御 | なし |

ii. 制御コマンドプロトコル：

コマンドは、**コマンドの長さ**、**ID**、**コマンドのタイプ**、**機能**、**データ**、**終了コード**で構成されています。コマンドの長さはそれぞれの機能によって異なります。

| コマンドプロトコル | |
|---|---|
| コマンドの長さ | 終了コード以外のメッセージの総バイト数。 |
| ID | それぞれのディスプレイの識別。 |
| コマンドのタイプ | 0x73 : Set コマンド<br>0x67 : Get コマンド<br>0x72 : Reply コマンド<br>0x2B : Valid コマンド応答<br>0x2D : Invaild コマンド応答 |
| コマンド | 各制御機能は一意のコマンドコードに割り当てられています。 |
| データ（値） | 各制御機能の値 |
| 終了コード（CR） | 0x0D |

基本的なコマンドの例は次のとおりです（例1、例2）。
このようなコマンドは、単一の PC が単一のディスプレイに接続しているときに使用します。

以下の場合は販売店まで問い合わせください。
・複数のディスプレイを接続したいとき
・基本的なコマンド以外のコマンドで複雑な制御を行いたいとき
・高度なコマンドの仕様について

**例 1**: 画面 ID-02 の輝度を 76 に設定 : このコマンドは有効です。

| PC からパケットを送信 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バイト | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | – |
| 名称 | 長さ (1 バイト) | ID (2 バイト) | | コマンドタイプ (1 バイト) | コマンドコード (1 バイト) | 値（>=3 バイト） | | | CR (1 バイト) |
| | | | | | | バイト 1 | バイト 2 | バイト 3 | |
| Hex | 0x38 | 0x30 | 0x32 | 0x73 | 0x24 | 0x30 | 0x37 | 0x36 | 0x0D |

| ディスプレイから PC にパケットを返信 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| バイト | 1 | 2 | 3 | 4 | – | |
| 名称 | 長さ | ID (2 バイト) | | コマンドタイプ | CR | |
| Hex | 0x34 | 0x30 | 0x32 | 0x2B | 0x0D | |

**例 2**: 画面 ID-02 から輝度の値を取得 ; このコマンドは有効であり、輝度の値は 80 です。

| PC からパケットを送信 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バイト | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | – |
| 名称 | 長さ (1 バイト) | ID (2 バイト) | | コマンドタイプ (1 バイト) | コマンド (1 バイト) | 値（≧ 3 バイト） | | | CR (1 バイト) |
| | | | | | | バイト 1 | バイト 2 | バイト 3 | |
| Hex | 0x38 | 0x30 | 0x32 | 0x67 | 0x62 | 0x30 | 0x30 | 0x30 | 0x0D |

| ディスプレイから PC にパケットを返信 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| バイト | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | – |
| 名称 | 長さ (1 バイト) | ID (2 バイト) | | コマンドタイプ (1 バイト) | コマンド (1 バイト) | 値（≧ 3 バイト） | | | CR (1 バイト) |
| | | | | | | バイト 1 | バイト 2 | バイト 3 | |
| Hex | 0x38 | 0x30 | 0x32 | 0x72 | 0x62 | 0x30 | 0x38 | 0x30 | 0x0D |

## Ethernet による制御

ハブと LAN ケーブルを使用してディスプレイと PC を接続（27 ページ参照）した後、OSD メニュー画面の [ 設定 ] メニュー内にある [ イーサネット設定 ] を使用してネットワーク設定を構成する場合、RS-232C と同じコマンドにて液晶ディスプレイをリモートで制御できます。

設定手順：

**1** シリアル通信機能に使用する通信インターフェースとして LAN を選択します（51 ページ参照。また、61 ページの " 設定のメニュー画面 " の [ 制御設定 ] もあわせて参照）。

**2** OSD メニューで以下のネットワークパラメーターを設定します。

- DHCP クライアントのオン / オフ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ

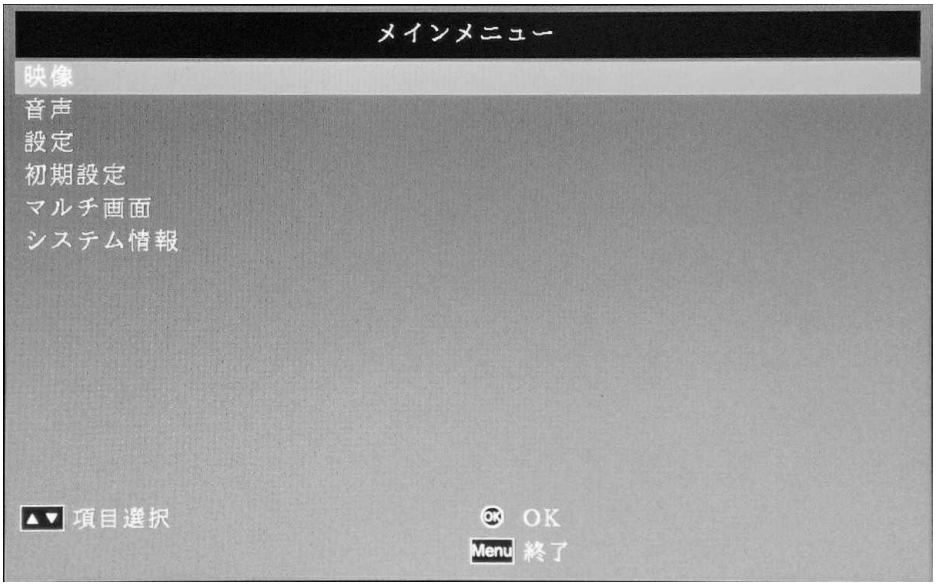
**3** ネットワークのパラメータを設定後、IP アドレスとポート番号（4660）を設定してソケット通信を実行します。

**4** RS-232C と同じ制御コマンドを TCP/IP ソケット通信経由で送信します。

**5** 液晶ディスプレイから送信された return コマンドをチェックします。正常に受信したら、設定は完了です。

# OSD 画面の構成と基本操作

本機では、設定を簡単に調整できるよう OSD( オンスクリーンディスプレイ ) 機能を採用しています。
OSD 機能で、画面に表示されたメニューを制御し、輝度やその他の設定を調整できます。

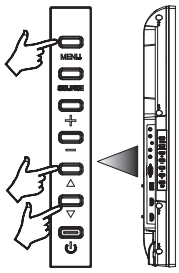
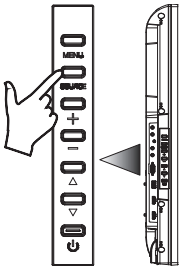
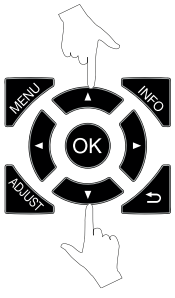
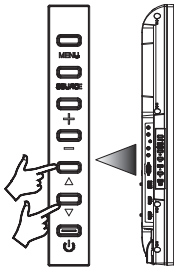


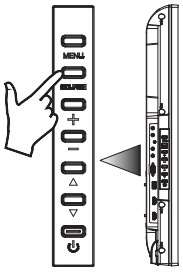
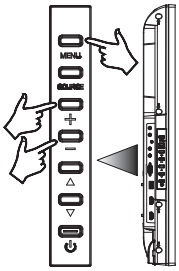
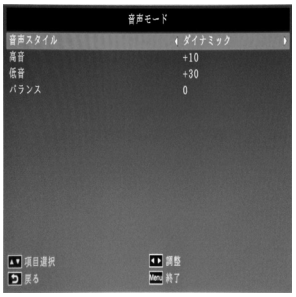
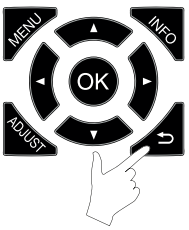
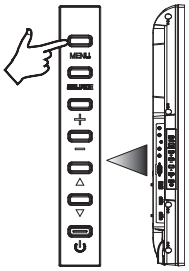

この表には、メインメニュー画面の OSD の初期設定の機能が記載されています。詳細項目は、次ページ以降に説明します。

| メインメニュー画面 | |
|---|---|
| **メニュー項目** | **詳細情報** |
| 映像 | 58 ページを参照 |
| 音声 | 60 ページを参照 |
| 設定 | 61 ページを参照 |
| 初期設定 | 62 ページを参照 |
| マルチ画面 | 63 ページを参照 |
| システム情報 | 65 ページを参照 |

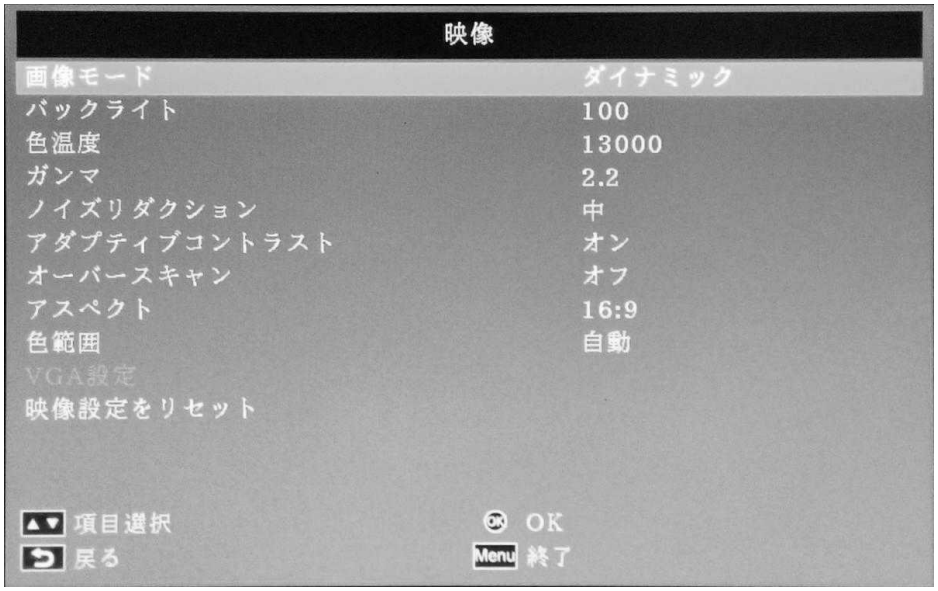
## OSD 画面の基本操作

電源インジケーターが緑色に点灯し、本機の電源がオンであることを確認してください。

| ステップ | 赤外線リモコン | モニターのボタン | 説明 |
|---|---|---|---|
| 1 | [MENU] ボタンを押して、OSD 画面を表示し、上（▲）/ 下（▼）ボタンを使用して、メインメニューの項目を選択します。 |  | |
| 2 | [OK] ボタンを押して選択したメインメニューを確定すると、一番上にあるサブメニューが選択されます。 |  [SOURCE] ボタンを押して選択したメインメニューを確定すると、一番上にあるサブメニューが選択されます。 | |
| 3 |  上（▲）/ 下（▼）ボタンを使用して、サブメニューを選択します。 |  | |

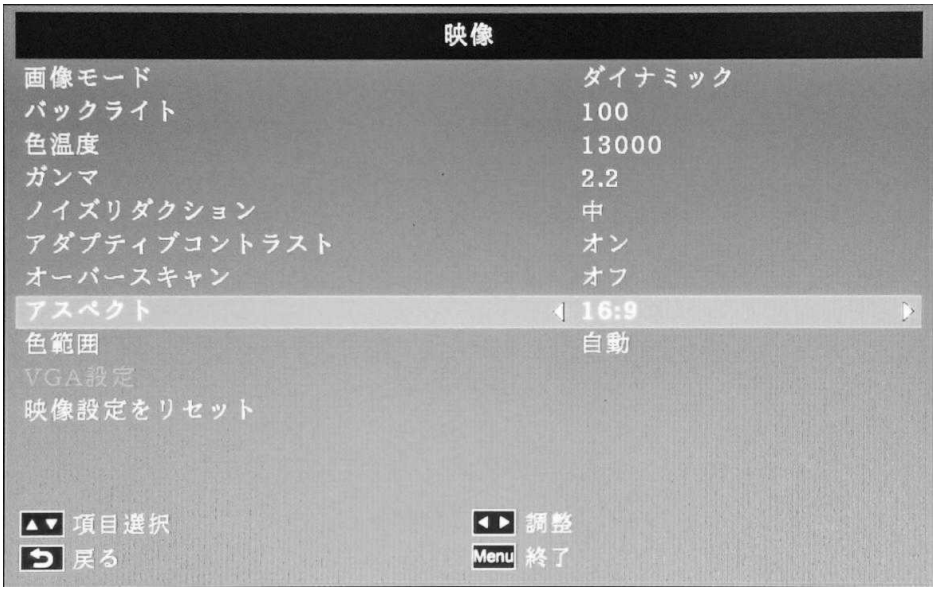
| ステップ | 赤外線リモコン | モニターのボタン | 説明 |
|---|---|---|---|
| 4 | <br>[OK] ボタンを押して選択したサブメニューを確定します。 |  <br>[SOURCE] ボタンを押して選択したサブメニューを確定します。 | |
| 5 | <br>左（◀）と右（▶）のボタンを使用して、設定を選択し、[OK] ボタンを押して確定します。 |  <br>プラス（+）とマイナス（−）のボタンを使用して、設定を選択し、[MENU] ボタンを押して確定します。 |  |
| 6 |  <br>[ 終了 ] ボタンを押して現在のメニューを終了して、前のメニューに戻ります。 |  <br>[MENU] ボタンを押して現在のメニューを終了します。 | |

## 映像のメニュー画面




| 映像のメニュー画面 | |
|---|---|
| 画像モード | [ ダイナミック ]、[ シネマ ]、[sRGB]、[ カスタム ]、[ スタンダード ] から画像スタイルを選択します。12 ページと 36 ページを参照してください。 |
| | コントラスト、輝度、シャープネス、色合い、色設定を調整します。 |
| バックライト | バックライトの設定を調整します。 |
| 色温度 | 色温度とゲインを調整します。 |
| ガンマ | ガンマの設定を選択します。 |
| アダプティブコントラスト | アダプティブコントラストをオン / オフします。 |
| オーバースキャン | オーバースキャンの設定を調整します。 |
| アスペクト | • アスペクト比の設定を調整します。<br>• [ ズーム ]（[ マルチ画面 ]）が有効になっている場合、この項目はグレイアウトされます。<br>• [4:3]、[16:9]、[ ズーム ]、[ シネマ ]、[ ドットバイドット ] から選択します。<br>• [ オーバースキャン ] がオフの場合、[4:3]、[16:9]、[ ドットバイドット ] のみ選択できます。<br>• [ マルチ画面 ]）が有効になっている場合、[ オーバースキャン ] はグレイアウトされ、[ オフ ] に設定されます。 |
| 色範囲 | 色範囲の設定を調整、または [ 自動 ] に設定します。 |
| VGA 設定 | 水平・垂直位置、クロック、位相を調整します。 |
| 映像設定をリセット | 設定を工場出荷設定に戻します。 |

## アスペクトのメニュー設定

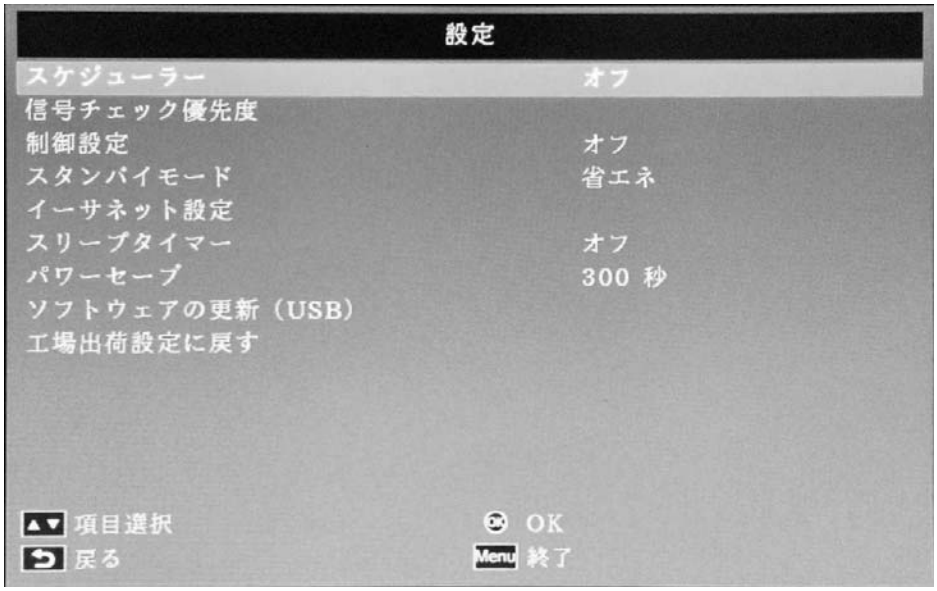



| アスペクトのメニュー設定 | | |
|---|---|---|
| 入力ソース | オーバースキャン | アスペクト |
| HDMI1/HDMI2<br>DVI-D<br>YPrPr<br>PC | オフ | 4:3<br>16:9<br>ドットバイドット |
| | 自動 | 4:3<br>16:9<br>ズーム<br>シネマ<br>ドットバイドット |
| AV | 自動 | 4:3<br>16:9<br>ズーム<br>シネマ |
| メディア動画 | オフ | 4:3<br>16:9<br>ドットバイドット |
| | 自動 | 4:3<br>16:9<br>ズーム<br>ドットバイドット |

## 音声のメニュー画面

| 音声のメニュー画面 | |
|---|---|
| 音声モード | [標準]、[ダイナミック]、[カスタム]から音声スタイルを選択します。 |
| | 高音、低音、バランスの設定を調整します。 |
| サラウンドサウンド | サラウンドサウンドをオン / オフします。 |
| スピーカー | 内部または外部スピーカーを選択します。 |
| 音声のみ | [ 音声のみ ] または [ 音声 / ビデオ ] を選択します。 |
| 音源 | [Line In/HDMI1] と [Line In/HDMI2] のいずれかを音声ソースとして選択します。 |
| 音声設定をリセット | 設定を工場出荷設定に戻します。 |

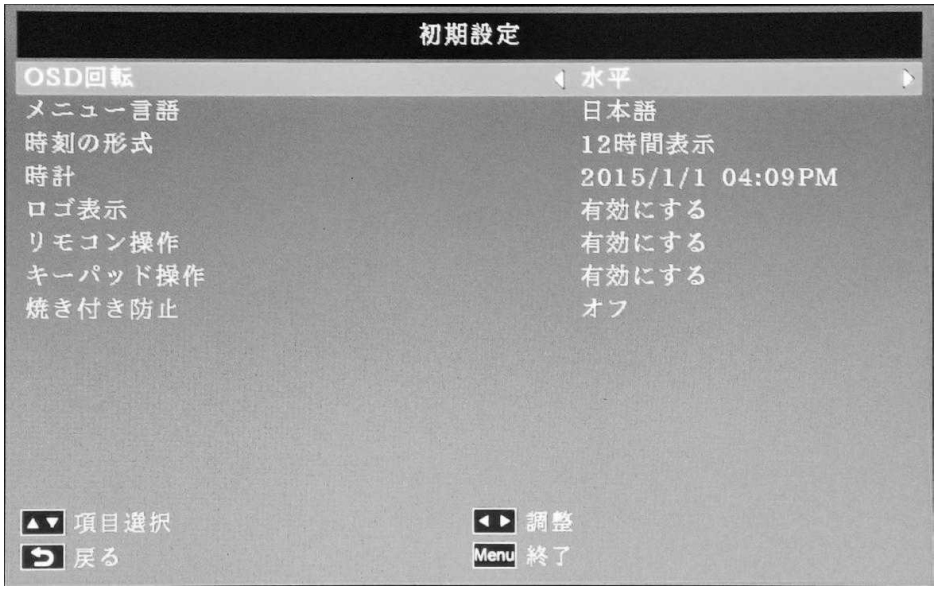
## 設定のメニュー画面




| 設定のメニュー画面 | |
|---|---|
| スケジューラー | スケジュールの設定を変更します。 |
| 信号チェック優先度<br> <br> | • 信号の優先度を 1 ～ 5 で設定します（[ 優先度 1] が最高）。現在のソース信号を失うと、ディスプレイが信号チェック優先度の設定に応じて新たな信号ソースを検索します。<br>• [ 信号チェック優先度 ] が有効になっている場合、電源オン時にディスプレイが信号チェック優先度の設定に応じて有効な信号ソースを検索します。<br>• [ 優先度 1] の信号ソースがない場合、ディスプレイは優先度の高い順に別のソースを確認して、ソースを適宜切り換えます。<br>• 優先度の一番高い信号ソースが復活したら、ディスプレイは自動的にこのソースに再び切り換えます。<br>• [ 信号チェック優先度 ] が無効になっている場合、電源オン時にディスプレイは最後に使用したソースを使用します。<br>• [ 信号チェック優先度 ] が有効になっている場合、電源オン時にソースが USB のときは、システムは USB を自動再生します。 |
| 制御設定 | RS-232C または LAN 経由で、液晶ディスプレイを制御するよう選択します。 |
| スタンバイモード | [省エネ] と [通常] のいずれかをスタンバイモードとして選択します。 |
| イーサネット設定 | LAN 経由でイーサネットの設定を変更します。 |
| スリープタイマー | スリープタイマーの設定を変更、またはスリープタイマーをオフにします。 |

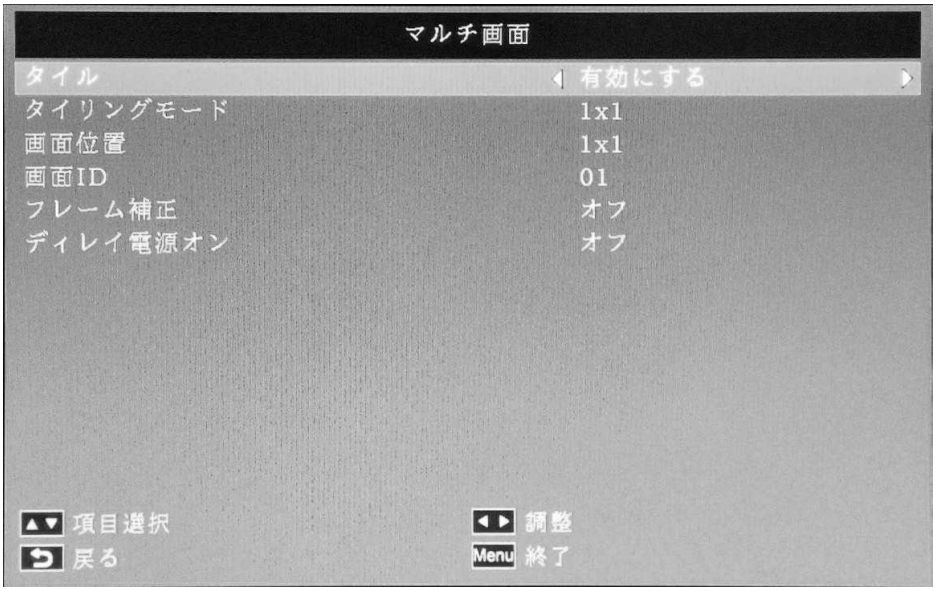
| 設定のメニュー画面 | |
|---|---|
| パワーセーブ | パワーセーブの設定を変更、またはパワーセーブモードをオフにします。 |
| ソフトウェアの更新（USB） | USB ポート経由でソフトウェアを更新します。 |
| 工場出荷設定に戻す | 設定を工場出荷設定に戻します。 |

## 初期設定のメニュー画面




| 初期設定のメニュー画面 | |
|---|---|
| OSD 回転 | [ 垂直 ] と [ 水平 ] のいずれかを OSD の向きとして選択します。 |
| メニュー言語 | OSD メニューの言語を変更します。 |
| 時刻の形式 | 12 時間形式と 24 時間形式のいずれかを選択します。 |
| 時計 | 時刻と日付を変更します。 |
| ロゴ表示 | 電源オン時に東芝のロゴを表示させるかどうかを選択します。 |
| リモコン操作 | リモート操作を有効 / 無効にします。 |
| キーボード操作 | キーボード操作を有効 / 無効にします。 |
| 焼き付き防止 | 2 つの焼き付き防止モードのうち 1 つを選択するか、オフにします。 |

## マルチ画面の制御メニュー画面




| マルチ画面の制御メニュー画面 | |
|---|---|
| タイル | マルチ画面を有効にします。最大 25 パネル（幅 5× 高さ 5）までを組み合わせて、1 つの大型画面（ビデオ壁）やその他の高インパクトサイネージに仕立てることができます。 |
| タイリングモード | 水平・垂直画面に使用するディスプレイ数を設定します。 |
| 画面位置 | 複数のディスプレイを使用した設置の場合、赤外線リモコンの [ 設定 ID] ボタンと RS-232C の制御機能を使用するときに、画面の位置の識別に使用します。 |
| 画面 ID | モニターの ID 番号を設定します。 |
| フレーム補正 | フレーム補正をオン / オフします。パネルのベゼル幅を補正して、映像を高精度に表示するようにします。 |

| マルチ画面の制御メニュー画面 | |
|---|---|
| ディレイ電源オン | 複数のディスプレイを使用した設置の場合、ディレイ電源オン機能で、電源オン後 0 ～ 30 秒間遅延させてディスプレイを連続起動します。この機能により、単一電源の使用時に突入電流の問題を回避し、全体の電力負荷要件を軽減できます。<br>• 電源オン時の遅延時間を設定するか、オフにします。<br>• 0 秒～ 30 秒 /0.5 秒間隔です。<br>• 初期設定では、[ 自動 ] に設定されています。<br>• この機能は画面 ID の数値と連動しています。<br>• 複数のディスプレイを使用する場合、それぞれのディスプレイが個別の画面 ID を割り当てられます。<br>• [ ディレイ電源オン ] で [ 自動 ] が設定されている場合、それぞれのディスプレイの電源の遅延時間が以下のとおり規定されます。<br>　• 遅延時間 = 画面 ID の数値 × 0.3 秒<br>　• 例えば、画面 ID が 5 に設定されているディスプレイでは、1.5 秒後に電源がオンします。 |

**複数のディスプレイを制御する**

以下の手順に従い、赤外線リモコンで画面 ID の数値を設定します。

**1** [MENU] ボタンを押します。

**2** 下（▼）ボタンを使用して、[ マルチ画面 ] まで移動して [OK] ボタンを押します。

**3** 左（◀）と右（▶）のボタンを使用して、2 桁の画面 ID を選択します。

**4** [MENU] ボタンを押して、メニューを終了します。

以下の手順に従い、赤外線リモコンでディスプレイを選択します。画面 ID は 2 桁の数値です。この例では、選択したディスプレイの ID は「02」です。

**1** [SET ID] ボタンを押します。OSD 画面に「IR Set ID」と表示されます。

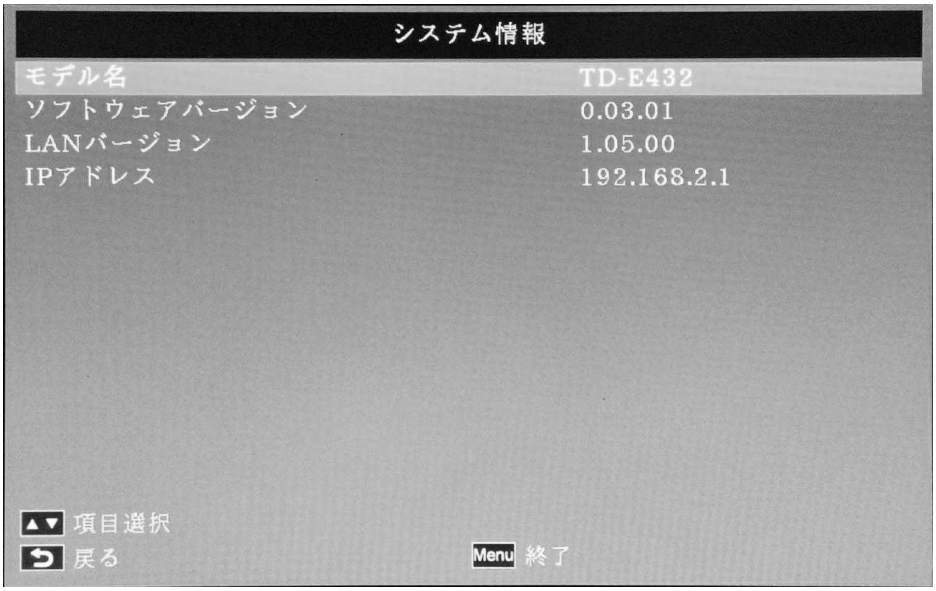
**2** [0],[2] を押します。OSD 画面に「IR Set ID 02」と表示されます。

**3** [Enter] ボタンを押します。ディスプレイの ID が「02」の場合、OSD 画面に「IR 解除 02」と表示されます。

**4** ディスプレイの ID が「02」ではない場合、OSD 画面に「IR ロック 02」と表示されます。

**5** ロックされた状態を解除するには、[SET ID] ボタンを押します。

## システム情報のメニュー画面




| システム情報のメニュー画面 | |
|---|---|
| モデル名 | ディスプレイのと型番を表示します。 |
| ソフトウェアバージョン | ディスプレイの現在のソフトウェアのバージョンを表示します。 |
| LAN バージョン | ディスプレイの現在の LAN のファームウェアのバージョンを表示します。 |
| IP アドレス | ディスプレイの現在の IP アドレスを表示します。 |

# 付録

## 仕様

メモ
- これらのモデルは以下に記載する仕様に準拠しています。
- デザインや仕様は予告なしに変更されることがあります。
- これらのモデルは、将来追加される機能や仕様と互換性がない可能性があります。

### LCD モジュール

| LCD モジュール | TD-E432/ TD-E432D | TD-E502/ TD-E502D | TD-E552 | TD-E652 |
|---|---|---|---|---|
| 画面サイズ | 43V 型 | 50V 型 | 55V 型 | 65V 型 |
| パネル方式 | VA | VA | VA | VA |
| 画素ピッチ（mm） | 0.49×0.49 | 0.57×0.57 | 0.63×0.63 | 0.744×0.744 |
| 解像度 | 1920 x 1080 ピクセル | 1920 x 1080 ピクセル | 1920 x 1080 ピクセル | 1920 x 1080 ピクセル |
| 色 | 8 ビット 1670 万色 | 8 ビット 1670 万色 | 8 ビット 1670 万色 | 10 ビット 10 億 6 千万色 |
| 輝度 ($cd/m^2$)（typ.） | 450 | 450 | 450 | 450 |
| コントラスト比 | 3,000 | 3,000 | 3,500 | 4,000 |
| 視野角 (CR ≧ 10) | 上下 89° 左右 89° | 上下 89° 左右 89° | 上下 89° 左右 89° | 上下 89° 左右 89° |
| 応答速度 | 8ms（G to G） | 8ms（G to G） | 8ms（G to G） | 8ms（G to G） |

## 表示サイズ（幅 × 高さ）

| | |
|---|---|
| TD-E432/TD-E432D | 940.9 x 529.3mm |
| TD-E502/TD-E502D | 1095.8 x 616.4mm |
| TD-E552 | 1209.6 x 680.4mm |
| TD-E652 | 1428.5 x 803.5mm |

## 電力管理

VESA DPM

## 電源

| | TD-E432/TD-E502/TD-E552/TD-E652/TD-E432D/TD-E502D |
|---|---|
| 入力電圧 | AC100±10% （50/60Hz） |
| パワーセーブモード時の消費電力 | 電源スイッチオフ時（DC 電源オフ、スタンバイ）：<0.5W<br>主電源オフ時：0W |

## 消費電力

| | |
|---|---|
| TD-E432/TD-E432D | 最大 90W |
| TD-E502/TD-E502D | 最大 170W |
| TD-E552 | 最大 180W |
| TD-E652 | 最大 226W |

## 入力 / 出力信号

### PC 入出力

| | | |
|---|---|---|
| 入力端子 | アナログ | D-SUB15 ピン、または YPbPr ケーブル（YPbPr、CVBS 共通端子） |
| | デジタル | HDMI x 2(PC/AV 共通端子、HDCP 対応 )、DVI-D（HDCP 対応） |
| 出力端子 | デジタル | DVI-D（HDCP 対応） |
| 水平周波数 | アナログ：15.625 kHz ～ 67.5 kHz、デジタル：31.5 kHz ～ 67.5 kHz | |
| 垂直周波数 | 50 Hz ～ 60 Hz | |
| ピクセルクロック | アナログ | 13.5 ～ 148.5.0 MHz |
| | デジタル | 25.0 ～ 148.5.0 MHz |
| ビデオ信号 | アナログ：アナログ RGB、デジタル：TMDS（HDCP 付き） | |

| | |
|---|---|
| 同期信号 | アナログ：セパレート（TTL）、コンポジット（TTL）、シンクオングリーン、デジタル：TMDS |
| 対応解像度 | アナログ：640 x 480、720 x 400、800 x 600、1024 x 768、1280 x 768、1280 x 800、1280 x 960、1280 x 1024、1360 x 768、1366 x 768、1600 x 1200、1920 x 1080<br>デジタル：640 x 800、800 x 600、1024 x 768、1280 x 1024、1280 x 768、1360 x 768、1680 x 1050、1920 x 1080 |

## AV 入出力

| | | |
|---|---|---|
| 入力端子 | アナログ | コンポジット（コンポーネント Y/Pb/Pr と共有）、D-SUB15 ピン、または YPbPr ケーブル |
| | デジタル | HDMI x 2(HDCP 対応 )、DVI-D（HDCP 対応）、USB |
| 出力端子 | デジタル | DVI-D（HDCP 対応） |
| 対応解像度 | コンポジット /S 端子：SDTV、DVD、HDTV<br>コンポーネント：480i、480p、576i、576p、720p、1080i、1080p | |

## 音声入出力

| | | |
|---|---|---|
| 入力端子 | アナログ | 3.5mm オーディオミニプラグ |
| | デジタル | HDMI x 2（デジタルオーディオ） |
| 出力端子 | アナログ | 3.5mm オーディオミニプラグ |

## 寸法

| | | |
|---|---|---|
| TD-E432/<br>TD-E432D | 幅 | 967mm |
| | 高さ | 568mm |
| | 奥行き | 70mm |
| TD-E502/<br>TD-E502D | 幅 | 1133mm |
| | 高さ | 656mm |
| | 奥行き | 70mm |
| TD-E552 | 幅 | 1246mm |
| | 高さ | 719mm |
| | 奥行き | 69mm |
| TD-E652 | 幅 | 1463mm |
| | 高さ | 844mm |
| | 奥行き | 70mm |

## 製品質量

| | |
|---|---|
| TD-E432/<br>TD-E432D | 本体質量 10.5kg；梱包質量 15.0kg |
| TD-E502/<br>TD-E502D | 本体質量 14kg；梱包質量 20.5kg |
| TD-E552 | 本体質量 17kg；梱包質量 24.0kg |
| TD-E652 | 本体質量 24kg；梱包質量 33.5kg |

## 表 1: 对应メディア仕様（映像）

| ファイル拡張子 | コンテナ | ビデオコーデック | 最大解像度 | 最大フレームレート | 最大ビットレート | MPEG-1 Audio Layer2と3 | AC3 | AAC | WMA | L-PCM |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| .mpg<br>.mpeg | – | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| .ts<br>.trp<br>.to<br>.m2ts | MPEG2-TS | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | H.264 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| .vob | MPEG2-PS | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | | | ○ |
| .mp4 | MP4 | MPEG-4 AVC | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | | ○ | | |
| | | H.264 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | | ○ | | |
| .mkv | MKV | H.264 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | MPEG-1 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | MPEG-4 AVC | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| .avi | AVI | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| | | MPEG-4 AVC | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | H.264 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |

## 表 1: 対応メディア仕様（映像）

| ファイル拡張子 | コンテナ | ビデオコーデック | 最大解像度 | 最大フレームレート | 最大ビットレート | MPEG-1 Audio Layer2と3 | AC3 | AAC | WMA | L-PCM |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| .asf<br>.wmv | ASF | H.264 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | | MPEG-2 Video | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | MPEG-4 AVC | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | VC1 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |
| | | WMV3 | 1080P | 30fps | 20 メガビット / 秒 | | | | | |

＊一部の動画は再生できない場合があります。特に MP4 動画については、エンコーダによって再生できない場合があります。

## 表 2: 対応メディア仕様（音声）

| ファイル拡張子 | オーディオコーデック | ビットレート | サンプリングレート |
|---|---|---|---|
| .mp3 | MPEG1 Audio Layer 3 | 32Kbps ～ 320Kbps | 32kHz ～ 48kHz |
| N/A<br>（動画ファイルのみに対応） | AC3 | 32Kbps ～ 640Kbps | 32kHz、44.1kHz、48kHz |
| .m4a<br>.AAC | AAC、HEAAC | 24Kbps ～ 384Kbps | 8kHz ～ 48kHz |
| .wma<br>.asf | WMA | 128Kbps ～ 320Kbps | 8kHz ～ 48kHz |
| N/A<br>（動画ファイルのみに対応） | LPCM | 64Kbps ～ 1.5 Mbps | 8kHz ～ 48kHz |

## 表 3: 対応メディア仕様（写真）

| ファイル拡張子 | Codec(Format) | 写真 | 解像度 |
|---|---|---|---|
| .jpg | JPEG | ベースライン | 15360x8640 |
| | | プログレッシブ | 1024x768 |
| .png | PNG | ノンインターレース | 9600x6400 |
| | | インターレース | 1200x800 |
| .bmp | BMP | － | 9600x6400 |

## 表 4: 対応メディア仕様（内部ファイルによる字幕）

| ファイル拡張子 | コンテナ | サブタイトルコーデック |
|---|---|---|
| .dat<br>.mpg<br>.mpeg<br>.vob | MPG | DVD サブタイトル |
| | MPEG | |
| .ts<br>.trp<br>.tp" | TS | DVB サブタイトル |
| .mp4 | MP4 | DVB サブタイトル |
| | | UTF-8 プレーンテキスト |
| .mkv | MKV | DVD サブタイトル |
| | | UTF-8 プレーンテキスト |
| | | ASS |
| | | SSA |
| | | ユニバーサルサブタイトルフォーマット |
| | | VobSub |
| .avi | AVI | XSUB |

## 表 5: 対応メディア仕様（外部ファイルによる字幕）

| ファイル拡張子 | コンテナ | 備考 |
|---|---|---|
| .srt | SubRip | |
| .ssa | SubSation Alpha | |
| .ass | SAMI | |
| .smi | | |
| .sub | SubViewer | SubViewer1.0 と 2.0 のみ |
| | MicroDVD | |
| | DVDSubtitleSystem | |
| | SubIdx（VobSub） | |
| .txt | TMPlayer | |

記載されているコンテナ、コーデックであっても再生できない場合があります。

TD-E432/TD-E502/TD-E552/TD-E652
TD-E432D/TD-E502D
液晶ディスプレイ

取付／取扱説明書
平成 27 年 9 月　初版発行
発行 : 東芝ライフスタイル株式会社
〒198-8710　東京都青梅市末広町 2-9

© 2015 TOSHIBA LIFESTYLE PRODUCTS & SERVICES CORPORATION
All rights reserved

仕様は予告なしに変更されることがあります